

和歌山保健医療圏構想区域における  
各公的病院が策定した『公的医療  
機関等 2025 プラン』について

〔 資料 3 通し頁 〕

- ( 1 ) 和歌山県立医科大学附属病院 …… P 1 ～ 13
- ( 2 ) 日本赤十字社和歌山医療センター …… P 14 ～ 46
- ( 3 ) 済生会和歌山病院 …………… P 47 ～ 56
- ( 4 ) 和歌山労災病院 …………… P 57 ～ 66

# 和歌山県立医科大学附属病院 公的医療機関等2025プラン

平成 29 年 12 月 策定

【和歌山県立医科大学附属病院の基本情報】

医療機関名：和歌山県立医科大学附属病院

開設主体：公立大学法人

所在地：和歌山県和歌山市紀三井寺 8 1 1 番地 1

許可病床数：

(病床の種別)

- ・一般病床 760床
- ・精神病床 40床

(病床機能別)

- ・高度急性期 635床
- ・急性期 125床

稼働病床数：

(病床の種別)

- ・一般病床 760床
- ・精神病床 40床

(病床機能別)

- ・高度急性期 635床
- ・急性期 125床

診療科： 糖尿病・内分泌・代謝内科、消化器内科、呼吸器内科・腫瘍内科、循環器内科、腎臓内科（人工透析）、血液内科、神経内科、リウマチ・膠原病科、小児科、神経精神科、心臓血管外科、呼吸器外科・乳腺外科、消化器・内分泌・小児外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、泌尿器科、産科・婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、歯科口腔外科、放射線科、リハビリテーション科、救急科、麻酔科、病理診断科

※緩和ケア、認知症疾患医療センター

職員数：1,937人（平成29年10月1日現在）

- ・ 医師 552人（内研修医70人）
- ・ 歯科医師 15人
- ・ 薬剤師 53人
- ・ 助産師 43人
- ・ 看護職員 802人
- ・ 歯科衛生士 5人
- ・ 管理栄養士 10人
- ・ 診療放射線技師 43人
- ・ 事務員その他の従業者 414人



## 【1. 現状と課題】

### ① 構想区域（和歌山保健医療圏）の現状

#### （1）人口及び高齢者数の推計

2市1町（和歌山市・海南市・紀美野町）により構成される和歌山保健医療圏内の総人口は全県人口の4割超を占めている。

圏域の総人口は減少の一途をたどり、2025年には約384千人まで減少すると推計されている。

また、65歳及び75歳以上高齢者人口に関しては増加が続き、2010年の人口を100とした場合の2025年の指数はそれぞれ、110.4、139.3と高い数値が予測されている。

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
総人口(人)	435,538	421,000	403,859	384,398	363,784	342,576	321,481
総人口の指数	100.0	96.7	92.7	88.3	83.5	78.7	73.8
65歳未満人口(人)	318,817	291,685	272,204	255,526	237,191	219,156	197,369
65歳未満人口の指数	100.0	91.5	85.4	80.1	74.4	68.7	61.9
65歳以上人口(人)	116,721	129,315	131,655	128,872	125,813	123,420	124,112
65歳以上人口の指数	100.0	110.8	112.8	110.4	107.8	105.7	106.3
75歳以上人口(人)	57,002	63,610	71,088	79,401	79,100	75,220	72,476
75歳以上人口の指数	100.0	111.6	124.7	139.3	138.8	132.0	127.1

#### （2）医療提供体制（4機能）

2016年の和歌山保健医療圏の病床数は6,074床で、県計12,354床の49%を占め、高度急性期については1,243床で96.1%を占めている。

区分	医療機関数	病床数					計
		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	分類なし	
和歌山	74	1,243	2,623	541	1,417	250	6,074
病院	40	1,243	2,410	485	1,331	129	5,598
有床診療所	34	0	213	56	86	121	476
県計	143	1,293	5,922	1,340	3,465	334	12,354
病院	75	1,293	5,509	1,206	3,219	131	11,358
有床診療所	68	0	413	134	246	203	996

#### （3）医療需要の推移

医療需要は、2015年から2025年にかけては増減なしであるが、2025年から2040年にかけては10%の減少となることが予測されている。

日本医師会「地域医療情報システム」





(4) 医療需要の特徴

各種医療に係る自己完結率（自圏域内医療機関対応者の割合）の状況

指標名	入外区分	二次医療圏						
		和歌山	那賀	橋本	有田	御坊	田辺	新宮
一般入院基本料	入院	96.9%	62.7%	79.7%	66.0%	87.7%	93.8%	81.3%
一般入院基本料(7, 10対1)	入院	96.7%	61.2%	79.8%	66.0%	86.7%	94.8%	81.0%
一般入院基本料(13, 15対1)	入院	97.6%	88.1%	79.2%	68.2%	93.8%	82.7%	85.1%
療養病棟入院基本料	入院	87.5%	72.2%	1.4%	86.7%	67.6%	87.0%	95.3%
精神病棟入院基本料	入院	71.6%	24.2%	29.3%	61.7%	69.9%	62.7%	65.7%
胃がん	入院	92.2%	53.4%	55.4%	55.5%	73.5%	95.5%	81.0%
	外来	98.0%	77.2%	79.6%	77.4%	89.0%	95.8%	91.5%
大腸がん	入院	98.9%	77.7%	67.2%	62.5%	91.9%	94.4%	81.3%
	外来	96.9%	79.6%	78.1%	76.7%	91.6%	93.8%	89.2%
肺がん	入院	96.4%	78.7%	54.4%	29.9%	86.9%	90.1%	66.9%
	外来	97.4%	71.4%	62.2%	43.1%	86.5%	92.0%	81.6%
乳がん	入院	100.0%	48.3%	87.6%	35.7%	38.2%	85.3%	48.0%
	外来	95.8%	59.1%	86.3%	52.2%	79.5%	93.9%	80.2%
肝がん	入院	98.5%	62.3%	58.4%	53.9%	79.8%	91.5%	67.8%
	外来	97.5%	65.8%	68.5%	57.0%	89.0%	92.0%	76.8%
化学療法	入院	98.5%	37.0%	37.3%	25.8%	57.4%	89.3%	35.2%
	外来	97.4%	40.5%	58.9%	25.7%	74.0%	92.1%	62.7%
放射線治療	入院	94.4%	68.9%	31.7%	0.0%	47.2%	100.0%	42.5%
	外来	97.2%	69.2%	76.1%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%
脳卒中	入院	95.4%	70.3%	69.9%	67.4%	81.5%	92.1%	86.4%
	外来	98.0%	78.5%	90.7%	88.4%	91.5%	96.1%	92.2%
脳卒中に対するリハビリテーション	入院	96.4%	71.1%	70.8%	56.7%	89.2%	96.8%	82.2%
	外来	100.0%	50.8%	67.5%	40.5%	94.6%	100.0%	89.3%
急性心筋梗塞	入院	96.3%	54.3%	73.7%	56.3%	85.5%	97.1%	87.4%
	外来	98.6%	71.3%	83.8%	82.2%	91.6%	96.8%	96.5%
狭心症	入院	94.0%	64.0%	65.1%	59.1%	77.6%	90.8%	84.5%
	外来	98.0%	76.1%	87.3%	86.9%	95.3%	96.5%	95.5%
糖尿病	入院	93.7%	62.1%	65.2%	63.2%	76.8%	84.9%	83.4%
	外来	97.8%	77.5%	87.0%	85.3%	92.4%	95.8%	94.0%
糖尿病の人工透析	外来	98.2%	62.5%	52.8%	100.0%	93.9%	77.0%	100.0%
入院精神療法	入院	70.8%	32.2%	47.2%	53.6%	56.9%	51.4%	76.6%
精神科救急入院	入院	44.9%	43.4%	87.0%	93.5%	0.0%	91.9%	0.0%
うつ病	入院	86.5%	51.3%	64.6%	68.7%	56.3%	76.8%	79.8%
	外来	95.2%	61.0%	87.4%	77.4%	85.7%	93.7%	87.3%
家族通院精神療法	外来	90.2%	64.2%	61.5%	51.7%	74.7%	91.1%	54.8%
2次救急	入院	96.6%	80.6%	77.4%	37.9%	92.2%	95.3%	89.3%
夜間休日救急搬送	入院	100.0%	80.0%	91.1%	48.6%	100.0%	100.0%	100.0%
集中治療室等の体制	入院	94.3%	0.0%	67.7%	0.0%	27.1%	96.7%	0.0%
小児外来診療体制	外来	95.8%	87.5%	83.0%	81.0%	90.6%	97.9%	94.5%
小児夜間・休日診療体制	外来	99.0%	74.4%	66.8%	72.9%	93.1%	97.2%	98.7%
小児の入院医療体制	入院	100.0%	59.6%	0.0%	0.0%	67.4%	86.7%	0.0%
重症児の入院医療体制	入院	87.0%	74.0%	41.8%	86.4%	47.5%	17.2%	59.2%
訪問診療(居宅)	外来	96.0%	80.4%	87.5%	83.5%	98.9%	95.1%	95.8%
訪問看護提供	外来	83.2%	42.2%	98.7%	96.9%	90.8%	100.0%	94.9%
往診	外来	95.2%	85.2%	91.0%	89.3%	98.2%	92.4%	96.2%
緊急往診	外来	96.5%	84.9%	92.9%	77.3%	100.0%	100.0%	100.0%
看取り	外来	100.0%	88.1%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

※平成 26 年度診療分レセプトデータに基づく 10%未満は 0.0%で表示

精神疾患等一部の指標を除き、自己完結率は 90%以上と総じて高く、また、大病院が複数所在していることから、県外も含めた周辺圏域からの患者流入の受け皿としての役割を果たしている現状である。

全県の約半数の病院が和歌山保健医療圏内に所在、とりわけ、和歌山市内に 37 病院が所在するなど、県内における医療資源等が集中している現状である。



## ② 構想区域（和歌山保健医療圏）の課題

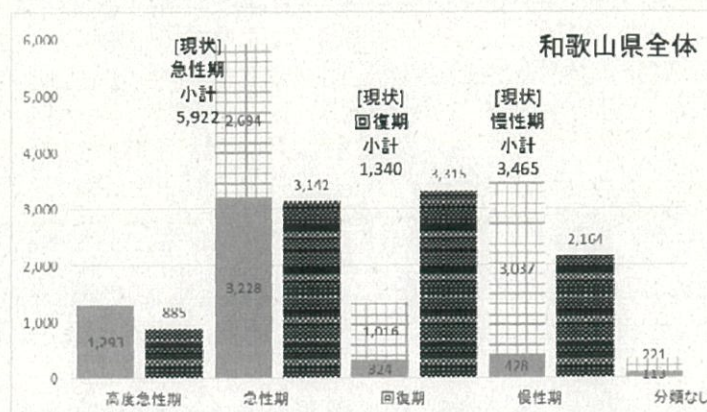
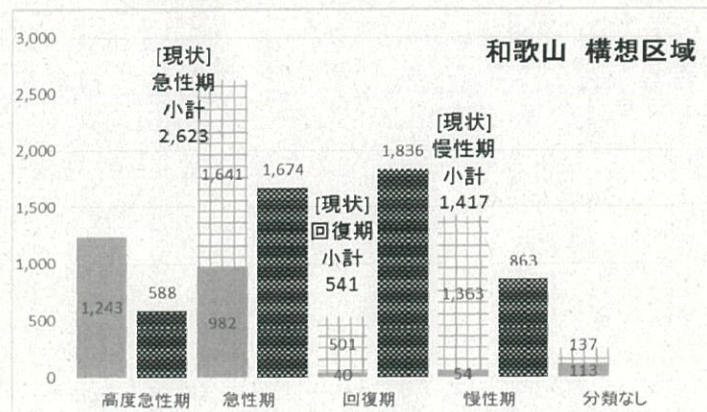
### （１）２０２５の必要病床数と現状

回復期病床については、必要病床数の１，８３６床に対し、１，２９５床不足しており、急性期病床からの転換も含めて、今後、回復機能をいかに充実させていくかが課題となっている。

「地域医療構想」では、“高度急性期病床に関しては、現状の医療提供体制を踏まえて、２０２５年においても、周辺圏域に係る医療需要も含めて引き続き、全県的な機能を担っていく必要がある”とされているが、病床数は１，２４３床（全県に占める割合９６．１％）から５８８床（６６．４％）へと６５５床削減することになっている。

２０２５年の医療需要予測が現在と変わらない数値であり、高度急性期の疾患の好発年齢である高齢者人口も２０１０年を１００とした場合の２０２５年の指数が１１０．４と予測されていることから、高度急性期を６５５床削減することは厳しい課題といえる。

	医療機能	【１】	【２】	【２－１】
		２０１６年の病床数 (病床機能報告)	２０２５年度の 必要病床数	
和歌山	高度急性期	1,243	588	-655
	急性期	2,623	1,674	-949
	回復期	541	1,836	1,295
	慢性期	1,417	863	-554
県計	高度急性期	1,293	885	-408
	急性期	5,922	3,142	-2,780
	回復期	1,340	3,315	1,975
	慢性期	3,465	2,164	-1,301



#### 棒グラフの凡例

- 2025年の病床数の必要量
- 現状の病床数 (民間医療機関)
- 現状の病床数 (公的医療機関)

※現状の病床数は、病床機能報告(2016年)より



(2) 非稼働病床

341床の非稼働病床があるが、当該病床の活用状況実態等を勘案し、圏域内で不足する回復期機能病床への転換又は廃止に向けて、整理していく必要がある。

平成28年7月1日現在

保健医療圏	病院			有床診療所			計		
	許可 病床数	非稼働 病床数	非稼働 割合	許可 病床数	非稼働 病床数	非稼働 割合	許可 病床数	非稼働 病床数	非稼働 割合
和歌山	5,598	220	3.9%	476	121	25.4%	6,074	341	5.6%
和歌山市	5,084	179	3.5%	410	112	27.3%	5,494	291	5.3%
海南地域	514	41	8.0%	66	9	13.6%	580	50	8.6%
県計	11,358	515	4.5%	996	248	24.9%	12,354	763	6.2%

※非稼働病床・・・病床機能報告の基準日前の1年間において、一度も入院患者を収容しなかった病床

※「海南地域」・・・海南市及び紀美野町



### ③ 自施設の現状

#### ・理念

私達は安全で質の高い医療を提供し、地域の保健医療の向上に貢献します。

#### ・基本方針

- 1 患者さんとの信頼関係を大切にし、安全で心のこもった医療を行います。
- 2 高度で先進的な医療の研究をすすめ、その成果を反映した医療を行います。
- 3 豊かな人間性と優れた専門技術を持った医療人を育成します。
- 4 和歌山県の基幹病院として、地域の保健医療に貢献します。

#### ・患者さんの権利

当院では、受診される皆様が、以下の権利を有することを確認し、尊重します。

- 1 個人として尊重され、平等に良質な医療を受ける権利があります。
- 2 診療に関して、十分な説明と情報を受ける権利があります。
- 3 十分な情報を得た上で、自己の意思に基づいて医療を受け、あるいは拒否する権利があります。
- 4 他の医療者の意見（セカンドオピニオン）を求める権利があります。
- 5 個人情報やプライバシーを保護される権利があります。

#### ・告示・指定

特定機能病院、都道府県がん診療連携拠点病院、認知症疾患医療センター、高度救命救急センター、総合周産期母子医療センター、肝疾患診療連携拠点病院、県災害拠点病院、エイズ治療中核拠点病院、精神保健福祉法による指定医療機関 など

#### ・基本診療料（平成29年12月現在）

地域歯科診療支援病院歯科初診料  
歯科外来診療環境体制加算、歯科診療特別対応連携加算  
特定機能病院入院基本料（一般 7 対 1 入院基本料）  
特定機能病院入院基本料（精神 13 対 1 入院基本料）・看護補助加算 2  
超急性期脳卒中加算  
診療録管理体制加算 2  
医師事務作業補助体制加算 1（25 対 1）  
急性期看護補助体制加算（75 対 1）  
看護職員夜間配置加算（16 対 1）  
療養環境加算（一般病棟）、療養環境加算（精神病棟）  
重症者等療養環境特別加算  
無菌治療室管理加算 1  
緩和ケア診療加算  
精神科身体合併症管理加算  
医療安全対策加算 1  
感染防止対策加算 1  
患者サポート体制充実加算  
褥瘡ハイリスク患者ケア加算  
ハイリスク妊娠管理加算、ハイリスク分娩管理加算  
呼吸ケアチーム加算  
病棟薬剤業務実施加算Ⅰ、病棟薬剤業務実施加算Ⅱ



データ提出加算 2  
 退院支援加算 1、退院支援加算 3  
 精神疾患診療体制加算 1、精神疾患診療体制加算 2  
 救命救急入院料 1、救命救急入院料 2  
 特定集中治療室管理料 2  
 総合周産期特定集中治療室管理料  
 新生児治療回復室入院医療管理料  
 小児入院医療管理料 2

・診療実績

項目	区分	26年度	27年度	28年度
入院	延入院患者数(人)	231,805	233,750	239,976
	新入院患者数(人)	16,517	16,636	16,522
	退院患者数(人)	16,431	16,588	16,553
	1日平均患者数(人)	635	639	658
	病床利用率(%)	79.4%	79.8%	82.2%
	病床稼働率(%)	85.0%	85.5%	87.9%
	平均在院日数(全病棟)(日)	14.1	14.1	14.5
	平均在院日数(一般病棟)(日)	13.7	13.7	14.0
	入院診療単価(円)	74,229	76,532	77,095
外来	延外来患者数(人)	361,392	364,413	366,783
	初診外来患者数(人)	24,920	25,041	23,744
	1日平均患者数(人)	1,481	1,500	1,509
	外来診療単価(円)	17,601	20,700	21,679
	紹介率(%)	76.1%	78.3%	83.4%
	逆紹介率(%)	70.1%	65.1%	69.2%
	救急車搬送患者数(人)	5,551	5,154	4,725
	ドクターヘリ搬送患者数(人)	353	411	432

・自施設の特徴

医学教育・研修を実施する能力を備えた大学附属病院として、高度急性期を中心に質の高い医学研究を基にした高度で先進的な医療を提供するとともに、県の基幹病院として、あらゆる分野の疾患において地域の保健医療に貢献している。

・自施設の担う政策医療（5疾病・5事業に対応）

○5疾病（がん、脳卒中、心筋梗塞等の血管疾患、糖尿病、精神疾患）

都道府県がん診療連携拠点病院、認知症疾患医療センター

●がんの医療体制

都道府県がん診療連携拠点病院の指定を受け、がん医療を重点課題としてその充実に取り組んでいる。

手術治療・放射線治療・化学療法を組み合わせた集学的治療を多職種によるチーム医療で提供し、併せて早期からの緩和ケアを実施することで、質の高いがん医療を提供している。

特に、高度で低侵襲な手術治療である手術支援ロボット「ダヴィンチ」を、平成29年12月に最新機種に入れ替え、2台体制（関西圏では初）とし、保険適応の前立腺、腎部分切除の他に膀胱・胃・直腸についても高度で先進的な医療を実施している。



●脳卒中

血管内治療を積極的に導入することにより、手術では到達困難な脳動脈瘤のコイル塞栓術や頸動脈狭窄症に対するステント留置を数多く実施している。

●心筋梗塞等の血管疾患

急性心筋梗塞や狭心症に対するカテーテルインターベンション治療(PCI)、大動脈弁狭窄症に対するカテーテル大動脈弁弛緩術(TAVI)、心房細動に対するカテーテルアブレーションなど高度先進医療を提供している。

●糖尿病

神経伝導検査と各種自律神経機能検査を組み合わせた独自の総合的神経機能評価システムによる詳細な糖尿病神経障害の評価や頸動脈超音波検査等を実施し、病態に応じた最適な治療を提供している。

糖尿病教室や糖尿病栄養指導外来により、糖尿病に関する知識や必要な技術指導を行うとともに、療養生活継続のための療養相談に応じている。

●認知症（精神医療）

院内に設置された認知症疾患医療センターにおいて、保険医療機関・介護機関等と連携を図りながら、鑑別診断、専門医療相談等を実施している。

また、認知症や高齢者の支援を行っている方を対象とした研修会等を実施することにより、認知症に対して進行予防から地域生活の維持まで必要となる介護・医療を提供できる地域機能体制に向けて活動している。

○5事業（小児医療、周産期医療、救急医療、災害医療、へき地医療）

総合周産期母子医療センター、高度救命救急センター、県災害拠点病院

●小児医療

超未熟児などを治療する新生児グループ、川崎病、先天性心疾患を治療する心臓グループ、白血病や固形腫瘍に対して、骨髄移植を含めた治療を行う血液グループ、各種腎疾患の診断治療と研究を行う腎臓グループ、難治性てんかんから摂食障害などの思春期治療まで幅広く診療を行う神経グループの5つの専門グループに別れ、専門的な治療を行っている。

●周産期医療

県内唯一の総合周産期母子医療センターとして、高いリスクの妊婦や新生児の受入れを行っている。

新生児搬送用ドクターカーの有効的な運用により、分娩医療機関からの新生児の緊急搬送依頼に対応し、受入れを行っている。

ドクターヘリにより遠方からの母体搬送、新生児搬送を実施している。

●救急医療

高度救命救急センターとして、主に重症外傷や突然に発症した脳・心血管障害、集中治療管理を有する重症臓器不全といった重症救急患者を24時間体制で受け入れている。

平成15年1月からドクターヘリの運航を開始し、地理的条件により高次医療機関までのアクセスが困難な地域からの出動要請に応えている。



●災害医療

県の災害拠点病院として、DMATチームや医療救護班による災害医療支援を積極的に実施している。

●へき地医療

地域医療を担う医師を養成する（地域医療枠、県民医療枠）とともに、遠隔医療システムの活用により、へき地医療への支援を実施している。

・地域医療機関等の連携

患者支援センターにおいて、入院時から退院や転院に向けて関わることにより、それぞれの患者に必要な退院後の支援について、在宅療養を担う地域の医療機関、訪問看護ステーション、介護支援専門員等と連携し、円滑な退院、転院支援を行っている。

また、地域の医療機関と相互に協力して、患者が必要とする最適で切れ目のない一貫性のある医療の提供を行うため、連携登録医制度を実施している。

④ 自施設の課題

・ 地域との効果的な交流を検討するとともに、病診連携、病病連携など交流をより積極的に図る必要がある。

・ 現在、大阪府からの患者流入の受け皿としての役割も果たしているが、今後も引き続き高度先進医療を推進していくことにより、ニーズに応じていく必要がある。

二次医療圏別初診外来患者数

医療圏	郡市	26年度		27年度		28年度	
和歌山	和歌山市	14,688	11,698	14,493	11,593	13,511	10,772
	海南市		2,601		2,508		2,382
	海草郡		389		392		357
那賀	紀の川市	2,119	1,199	2,265	1,271	2,223	1,258
	岩出市		920		994		965
橋本	橋本市	411	196	454	218	440	212
	伊都郡		215		236		228
有田	有田市	3,522	1,516	3,473	1,427	3,278	1,253
	有田郡		2,006		2,046		2,025
御坊	御坊市	853	449	852	424	875	445
	日高郡		404		428		430
田辺	田辺市	561	382	591	385	616	404
	西牟婁郡		179		206		212
新宮	新宮市	380	151	415	152	455	153
	東牟婁郡		229		263		302
大阪府	泉南市	1,428	200	1,501	277	1,415	231
	泉南郡		250		232		222
	泉佐野市		64		52		62
	貝塚市		172		163		134
	岸和田市		74		84		73
	大阪府(その他)		668		693		693
その他		958		997		931	
	計	24,920		25,041		23,744	

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

他の病院ではできない、質の高い医学研究を基にした高度で先進的な医療を提供し、あらゆる分野の疾患に対して総合的な診療ができる県内で唯一の特定機能病院としての役割と高度先進医療を通じて県民の医療に責任を持つ県立病院としての役割を引き続き担っていく。

高度急性期・急性期機能病床を保有する医療機関として、手術が終了した患者、急性期を脱した患者の回復期機能病床等を保有する病院への転院を円滑に行っていく。

がんや認知症に関する研究をはじめとして、本県における医療水準の向上や県民の健康増進、疾病予防等に資する研究を推進していく。

救急医療・小児・周産期医療について、基幹病院としての機能を維持強化していく。

基幹災害医療センターとして、災害時の医療救護活動の中心的役割を果たしていく。

県及び地域の医療機関との連携等により、地域の医療体制の充実を支援するとともに、へき地医療に従事する医師確保対策に取り組むことにより、県内の医療提供体制の充実に寄与する。

県及び地域の医療機関と連携しながら、当院の専門医によるアドバイスを受けることができる遠隔医療支援システム等の更なる活用を推進していく。

地域の医療機関に対し、専門的な情報発信を通じて、地域の医療水準の向上を推進していく。

総合診療教育をはじめとする教育及び研修を充実させ、地域医療を担う医師の育成を図っていく。

県下の病院の看護師育成に関する課題解決に向けた取組を実施するとともに、看護師の特定行為研修を実施し、安定的に研修終了者を輩出していく。

② 今後持つべき病床機能

今後も大学附属病院、特定機能病院として、また、県民医療の最後の砦として、高度急性期・急性期機能病床を維持していく。

③ その他見直すべき点



【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	635	→	635
急性期	125		125
回復期			
慢性期			
(合計)	760		760

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度	合意形成に向けた協議	自施設の今後の病床のあり方を決定（本プラン策定）	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin-right: 10px; text-align: center;">           2 年 間 程 度 で 集 中 的 な 検 討 を 促 進         </div> <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="background-color: #f4a460; padding: 10px; margin-bottom: 10px; text-align: center;">             第7期 介護保険 事業計画           </div> <div style="background-color: #90ee90; padding: 10px; margin-bottom: 10px; text-align: center;">             第7次医療計画           </div> <div style="background-color: #f4a460; padding: 10px; text-align: center;">             第8期 介護保険 事業計画           </div> </div> </div>
2018年度	地域医療構想調整会議における合意形成に向け検討	地域医療構想調整会議において自施設の病床のあり方に関する合意を得る	
2019～2020年度			
2021～2023年度			



② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設		→	
廃止		→	
変更・統合		→	

③ その他の数値目標について

医療提供に関する項目

平成35(2026)年度までに達成すべき目標値

- ・ 新外来患者数：27,300人(23,744人)
- ・ 病床稼働率：88.7%(87.9%)
- ・ 逆紹介率：75.0%(69.2%)

※( )は平成28年度数値

【4. その他】

(自由記載)



# 日本赤十字社和歌山医療センター 公的医療機関等2025プラン

平成29年 12月 策定



## 目 次

日本赤十字社和歌山医療センターの基本情報	1
1. 現状と課題	3
①和歌山保健医療圏の現状	3
医療提供体制・疾病構造・患者の受療動向等	4
②和歌山保健医療圏の課題	6
地域医療構想の実現に向けて必要となる施策等	7
③当センターの現状	8
施設・設備について	9
入院患者の状況	10
当センターが提供する高度専門医療	13
○内視鏡手術	13
○放射線治療	14
当センターが担う政策医療について	15
○救急医療	15
○災害医療	16
○がん医療	17
○脳卒中	18
○心筋梗塞等の心血管疾患	18
○糖尿病	19
○精神疾患	19
○周産期医療、小児医療（小児救急医療を含む。）	20
○医療連携	21
④当センターの課題	22
2. 今後の方針	22
①地域において今後担うべき役割	22
②今後持つべき病床機能	23
③その他見直すべき点	23

3. 具体的な計画	23
① 4 機能ごとの病床のあり方について	23
② 診療科の見直しについて	24
③ その他の数値目標	24
4. その他	25
当センターが取り組むその他の事業	25
○人材確保と育成	25
○国際医療救援事業	27
○第一種・第二種感染症指定医療機関	29
○県民大学	30
○臨床研究	30

## 日本赤十字社和歌山医療センターの基本情報

医療機関名	日本赤十字社和歌山医療センター
開設主体	日本赤十字社
所在地	和歌山市小松原通四丁目 20 番地

許可病床数	873 床 (平成 29 年 7 月 1 日)	
(病床の種別)	一般	865 床
	療養	0 床
	結核	0 床
	精神	0 床
	感染症	8 床
(病床機能別) ※感染症を除く	高度急性期	614 床
	急性期	138 床
	回復期	0 床
	慢性期	0 床
	休床等	113 床

稼働病床数	727 床 (平成 29 年 7 月 1 日)	
(病床の種別)	一般	719 床
	療養	0 床
	結核	0 床
	精神	0 床
	感染症	8 床
(病床機能別) ※感染症を除く	高度急性期	581 床
	急性期	138 床
	回復期	0 床
	慢性期	0 床



## 診療科目（標榜診療科）

平成 29 年 4 月 1 日現在

循環器内科、消化器内科、糖尿病・内分泌内科、血液内科、外科・消化管外科・肝胆膵外科、乳腺外科、小児外科、眼科、耳鼻咽喉科、第一産婦人科、第二産婦人科、小児科、第一泌尿器科、第二泌尿器科、腎臓内科、皮膚科、整形外科、歯科口腔外科、放射線治療科、放射線診断科、脳神経外科、麻酔科、呼吸器内科、心臓血管外科、リハビリテーション科、神経内科、精神科、形成外科、呼吸器外科、心療内科、リウマチ科、感染症内科、漢方内科、第一救急科部、集中治療部（第二救急科部）、神経救急部（第三救急科部）、外傷救急部（第四救急科部）、病理診断科部

## 職員数

平成 29 年 4 月 1 日現在

	職員数	医師	看護職員	専門職	事務職員
常勤職員数	1,592	237	875	191	289
常勤換算数	1,625.9	246.3	892.9	193.6	293.1

## 認定・指定等

平成 29 年 4 月 1 日現在

高度救命救急センター  
和歌山県総合災害医療センター  
第一種・第二種感染症指定医療機関  
臨床研修指定病院  
地域がん診療連携拠点病院  
地域医療支援病院  
地域周産期母子医療センター  
病院機能評価（一般病院 2 3rd G:Ver. 1.0）認定  
日本赤十字社国際医療救援拠点病院

## 【1. 現状と課題】

### ①和歌山保健医療圏の現状

当センターが位置する和歌山保健医療圏は2市1町（和歌山市・海南市・紀美野町）により構成され、圏域内の総人口は全県人口の4割超を占めている。

圏域の総人口については2025年に向けて減少の一途を辿ると推計される一方で、65歳以上高齢者人口に関しては増加していく見込みである。

### 和歌山圏域の現状と基本的事項

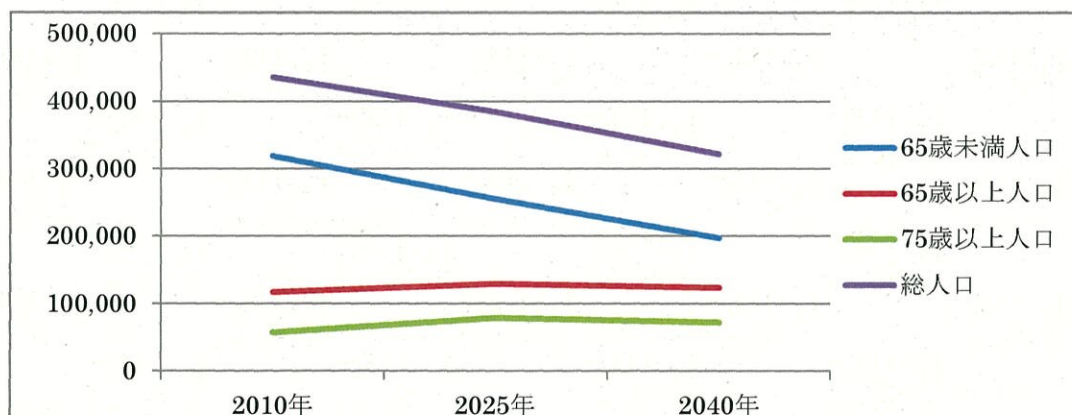
区分		和歌山圏域	全県
構成市町村数		2市1町	9市20町1村
面積（対全県比）		438.24 km <sup>2</sup> (9.3%)	4,724.68 km <sup>2</sup>
人 口	総人口（対全県比）	435,538 人 (43.5%)	1,002,198 人
	65歳未満人口	318,817 人	728,005 人
	65歳以上人口	116,721 人	274,193 人
	75歳以上人口	57,002 人	140,780 人

面積は国土交通省国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調（平成26年面積）」、人口は総務省「平成22年国勢調査」による

### 人口推計

(人)

和歌山保健医療圏	2010年	2025年	2040年
65歳未満人口	318,817	255,526	197,369
65歳以上人口	116,721	128,872	124,112
75歳以上人口（再掲）	57,002	79,401	72,476
総人口	435,538	384,398	321,481



出典:和歌山県地域医療構想



全県の約半数の病院が和歌山圏域に所在し、高度急性期・急性期から回復期、慢性期に至るまでの各機能の医療を担っており、とりわけ和歌山市内に 36 病院が集中するなど、県内における医療資源等が集中している現状にある。

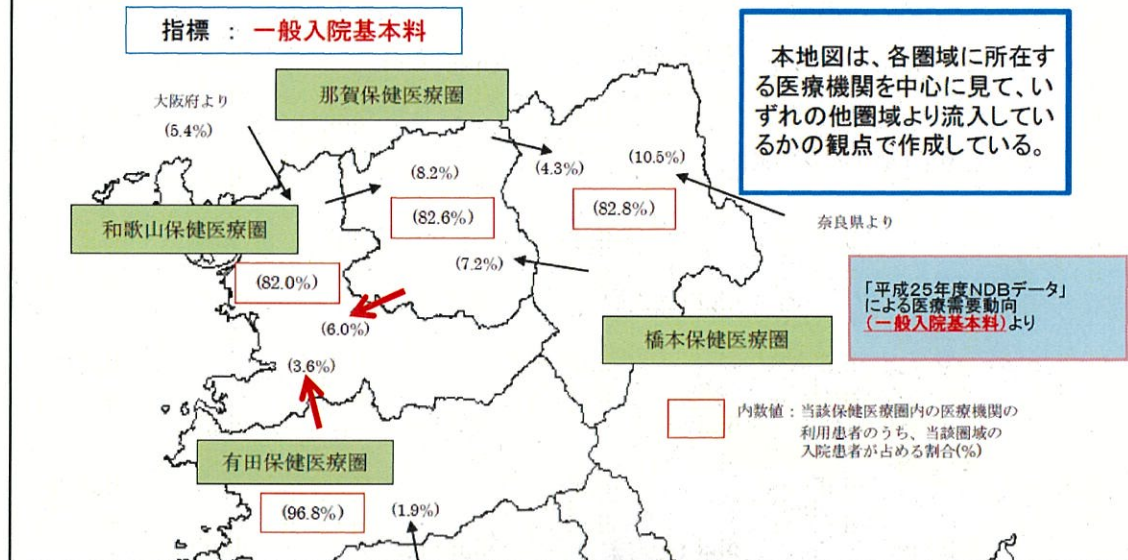
和歌山県の公的病院



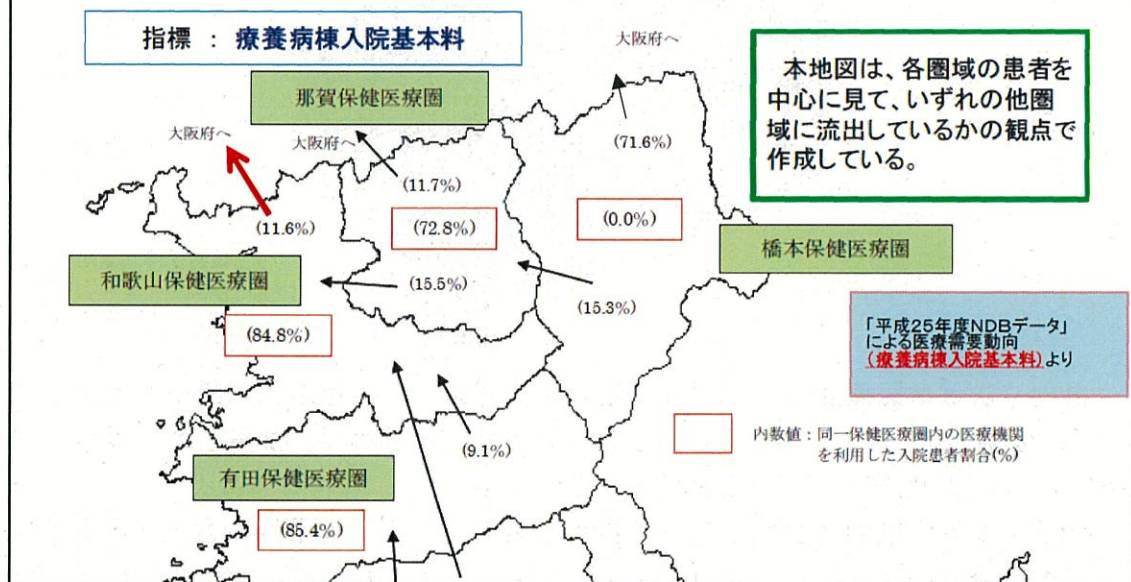
県内二次保健医療圏の入院患者の動向は、総じて、医療施設が集中している和歌山保健医療圏に入院患者が集中する傾向にあり、とりわけ、那賀・有田保健医療圏から和歌山保健医療圏への患者流出が見られる。

和歌山保健圏域内における自己完結率は高く、加えて、県外も含めた周辺圏域からの患者流入の受け皿としての役割を果たす一方で、療養病床に関しては大阪府（泉州圏域）への患者流出が見られる。

◆2013年度（平成25年度）NDBデータによる「患者流入」の状況◆  
（指標：一般入院基本料）



◆2013年度（平成25年度）NDBデータによる「患者流出」の状況◆  
（指標：療養病棟入院基本料）



出典：和歌山県地域医療構想



### 2013 年度（平成 25 年度）和歌山保健医療圏における「充足率」の状況（主要疾病等）

区 分	充足率	区 分	充足率
基本診療体制（一般入院基本料）入院	117.9%	2 次救急（入院）	123.4%
一般入院基本料（7 対 1、10 対 1）（再掲）（入院）	119.8%	3 次救急（入院）	140.6%
一般入院基本料（13 対 1、15 対 1）（再掲）（入院）	106.2%	救命・救急（夜間休日救急搬送）	118.7%
基本診療体制（療養病棟入院基本料）（入院）	94.1%	急性心筋梗塞（入院）	113.8%
基本診療体制（有床診療所入院基本料）（入院）	112.9%	糖尿病（入院）	117.3%
がん診療（がん診療）（入院）	127.6%	脳卒中（入院）	105.8%
がん診療（胃がん）（入院）	122.9%		
がん診療（大腸がん）（入院）	114.6%		
がん診療（直腸がん）（入院）	111.2%		
がん診療（肝がん）（入院）	128.3%		
がん診療（乳がん）（入院）	120.5%		
がん診療（肺がん）（入院）	119.3%		

充足率＝（当該圏域内の医療施設で診療を受けた患者数）÷（当該圏域内の患者数）×100

（出典）患者レセプト情報・特定健診等情報データベース（NDB：ナショナルデータベース）（平成 25 年度）

### ②和歌山保健医療圏の課題

2025 年における主要な医療提供体制については、現状の医療提供体制を踏まえ、周辺圏域に係る医療需要も含めて引き続き、全県的な高度急性期機能を担っていく必要がある。

### 和歌山圏域における必要病床数等

医療機能	2025 年における 医療需要（人／日）	2025 年における 必要病床数（床）	2016 年 7 月 1 日現在 の病床数（床） 【病床機能報告より】
高度急性期	441	588	1,243
急性期	1,306	1,674	2,623
回復期	1,652	1,836	481
慢性期	794	863	298
計	4,193	4,961	4,645
在宅医療等	8,170		

出典：和歌山県地域医療構想

◇地域医療構想の実現に向けて必要となる施策等

・回復期病床が不足する中で、今後、回復期機能をいかに充実させていくかが課題である。回復期（リハビリ等）を担う医療従事者が不足している現状であることから、人材確保・養成に関しても大きな課題となっている。

・2025年における「あるべき医療提供体制」の実現に向け、地域包括ケアシステムとしての施策展開が必要である。また在宅医療の充実のほか、介護施設に係る整備を一体的に進めていく必要がある。

・全県的な高度急性期機能を担っていく必要があることや、在宅医療等を充実させていく中で、医師、看護師等をはじめとした医療従事者の養成・確保も大きな課題である。

・今後高齢化が進展していく中、へき地を含めた在宅医療をどのように充実していくかも課題となる。



### ③当センターの現状

#### ＜理念・基本方針＞

理念
赤十字職員としての使命を胸に、心のかよった最良の医療を提供し、地域社会に貢献します。
基本方針
1. 急性期病院として高度で質の高い医療を追求するとともに、安心安全な医療の提供に努めます。
2. 高度救命救急センターの役割を果たし、救急医療に積極的に取り組みます。
3. 国内外における救護・救援活動および保健衛生活動に積極的に取り組みます。
4. 地域の医療機関と連携を密にし、地域の基幹病院としての使命を全うします。
5. 次世代の医療を担う人材を育成します。
6. 働きがいのある充実感溢れる職場づくりを目指します。
7. 社会的使命の永続的遂行を図るため、健全な病院運営に努めます。

当センターは、明治 38 年 4 月に日本赤十字社和歌山県支部病院として開設以来、本年で 111 年を迎え、これまで地域の急性期医療を担う中核病院として、大きく発展してきた。

平成 14 年 12 月に地域がん診療連携拠点病院に指定され、平成 18 年 12 月には地域医療支援病院に承認された。また、昭和 61 年に県下初の救命救急センターを開設し、これまでの地域における救急医療が評価され、平成 23 年 4 月には高度救命救急センターに認定された。

平成 23 年 5 月には地域周産期母子医療センターの認定を受け、同年 10 月には第一種・第二種感染症指定医療機関の指定を受けている。

DPC 病院としては平成 21 年度より運営しており、効率的な医療の実践が評価され、平成 26 年度より DPC II 群病院（大学病院本院に準ずる機能を有する病院）として認められ、現在も維持している。

現在、届出入院料としては、救命救急入院料、特定集中治療室管理料、新生児特定集中治療室管理料、新生児回復室入院管理料、7 対 1 入院基本料を算定しており、高度急性期及び急性期の病床機能となっている。

また、和歌山県の防災拠点として和歌山県総合災害医療センターに指定されている。



### ◆施設・設備について

平成 23 年 5 月に最新鋭の設備・機能を備えた本館が完成し、当センターの医療機能が飛躍的に向上した。免震構造の本館に手術室 22 室、救急外来、ICU、屋上ヘリポート等を集約したことで、高度救命救急センターの機能強化を図り、万一の災害時にも対応できる機能を備えている。

#### 施設概要

敷地面積	25,609.46㎡
敷地内建物面積	97,293.54㎡
建築物構造	鉄骨造(一部鉄骨鉄筋コンクリート造) 免震構造(本館)
設備	免震装置 屋上ヘリポート(2機駐機型) 非常用発電装置 井水給水設備 駐車場541台

#### 保有する主要設備

手術機器	手術支援ロボット(ダ・ヴィンチSi) 3D手術内視鏡システム 手術ナビゲーションシステム 等
放射線治療装置	リニアック(2台)、マイクロセレクトロン(1台)
放射線診断機器	320列マルチスライスCT(1台)、64列マルチスライスCT(2台) 3テスラMRI(1台)、1.5テスラMRI(2台)
血管撮影装置(アンギオ)	バイプレーン(3台)、シングルプレーン(1台)



### ◆入院患者の状況

入院患者数については、平均在院日数の大幅な短縮により延入院患者数は減少しているが、新規入院患者数は年々増加している。病床稼働率は新入院患者数の増加と効率的な病床運用により上昇している。

入院患者数等の推移（平成 24 年度～平成 28 年度）

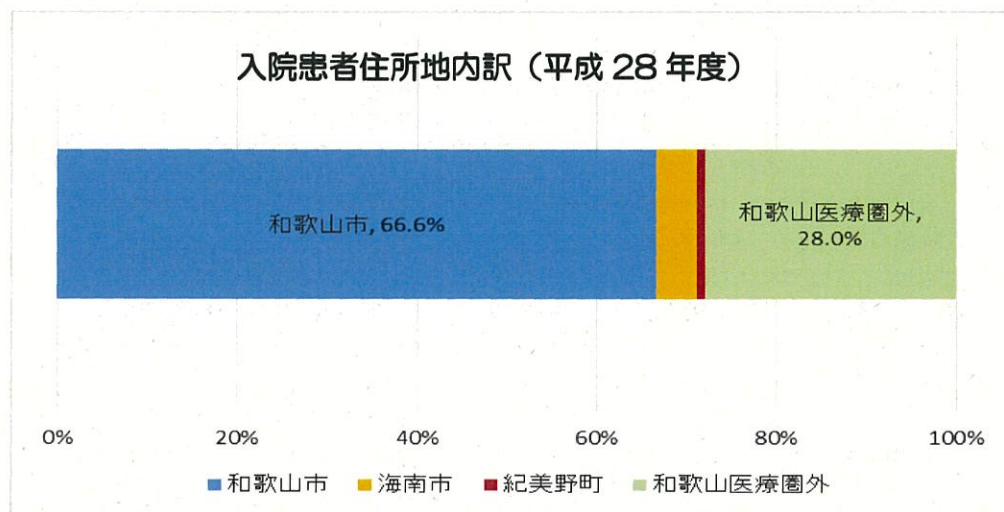
	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
新入院患者数	19,192 人	18,527 人	18,702 人	19,302 人	19,912 人
入院延患者数	264,093 人	246,409 人	234,444 人	234,388 人	232,658 人
病床稼働率	84.8%	79.1%	80.9%	82.0%	87.0%
平均在院日数	13.6 日	13.0 日	13.0 日	12.6 日	11.9 日

平成 28 年度の入院患者数は、19,912 人で延 232,658 人の実績となり、内 6 割が予定入院、4 割が緊急入院であった。また、半数以上の患者さんに対し手術治療を実施している。



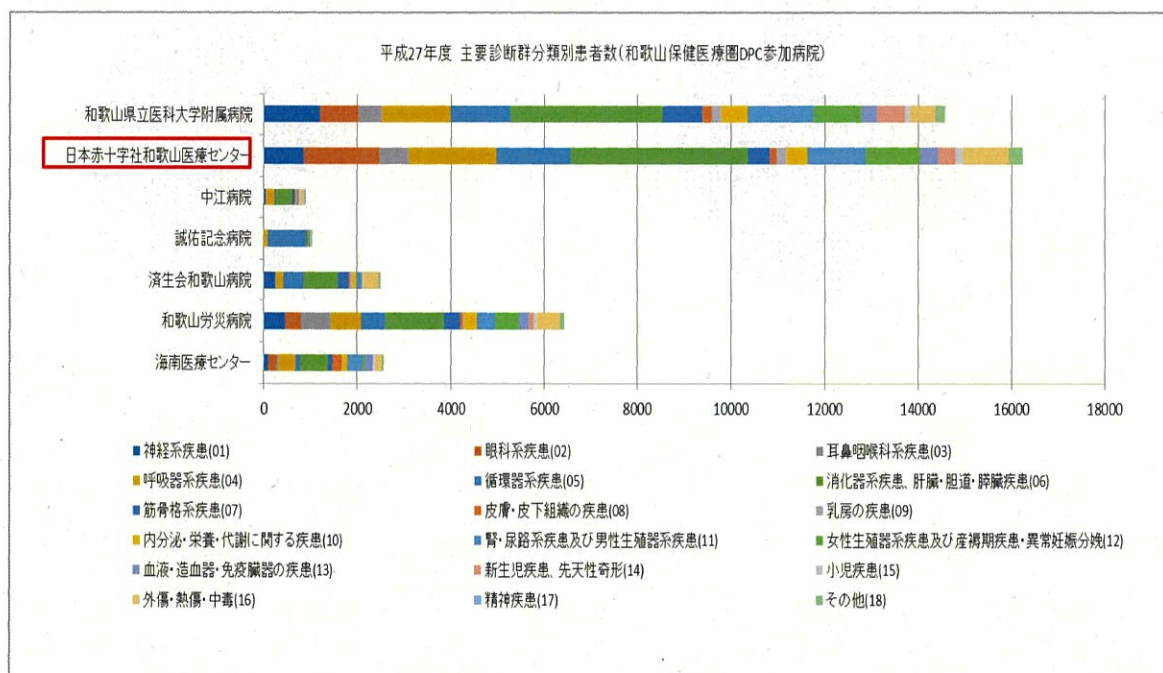


また、入院患者の住所地を見ると和歌山市が 66.6%、海南市が 4.5%、紀美野町が 0.9%と和歌山医療圏内が 72%であった。一方で和歌山医療圏外が他府県を含め 28%を占めている状況である。



当センターは和歌山医療圏において最も患者数が多く、地域において約 3 分の 1 の医療を担っている。

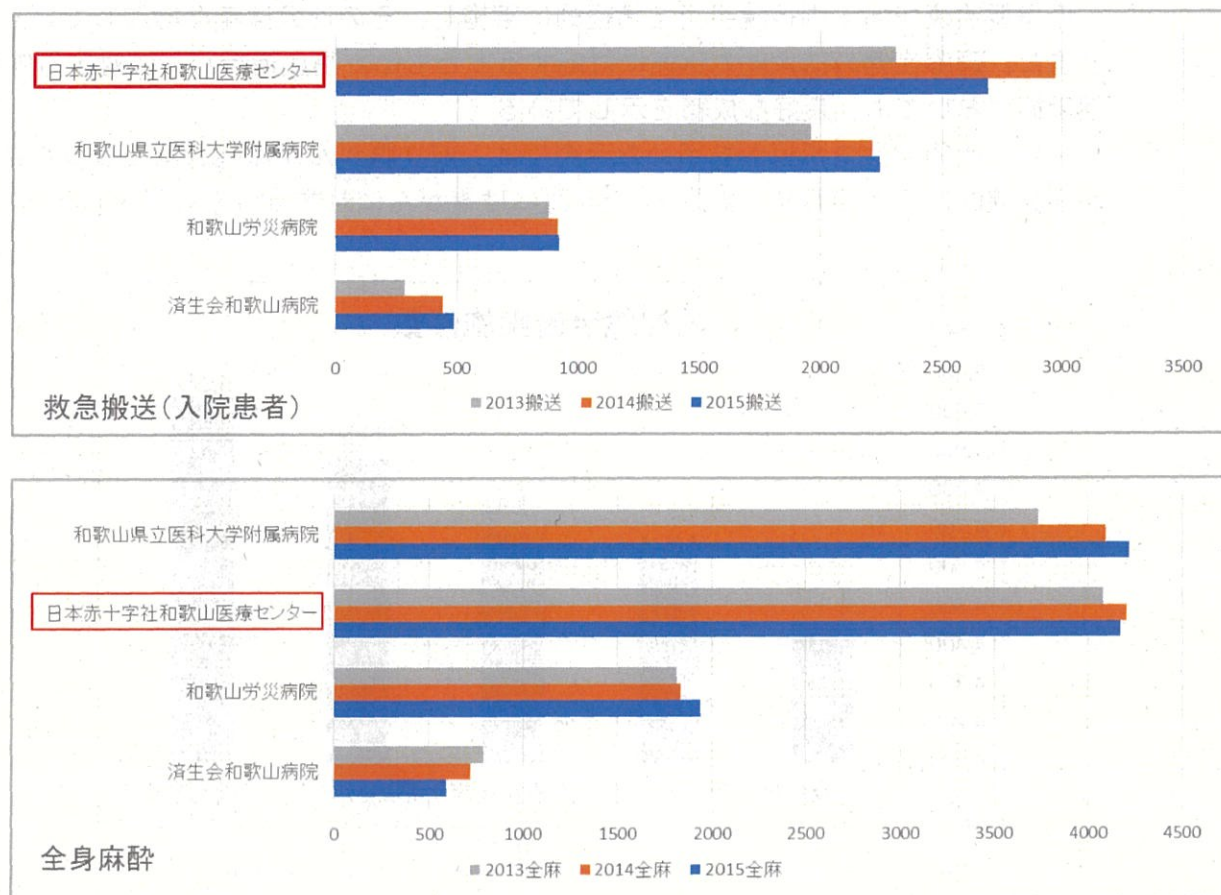
診断群分類別患者数を見ても、多くの診断群において地域の医療を支えている。



資料：平成 27 年度 DPC 公開データから作成



地域で最も救急搬送入院患者数が多く、全身麻酔件数については和歌山県立医科大学附属病院と同等の実績である。



資料：DPC 公開データから作成

上記データが示すとおり、和歌山圏域では当センターと和歌山県立医科大学附属病院が中心となり、県内全域の高度急性期の患者を治療するとともに、病院間の機能分化と連携がなされている。

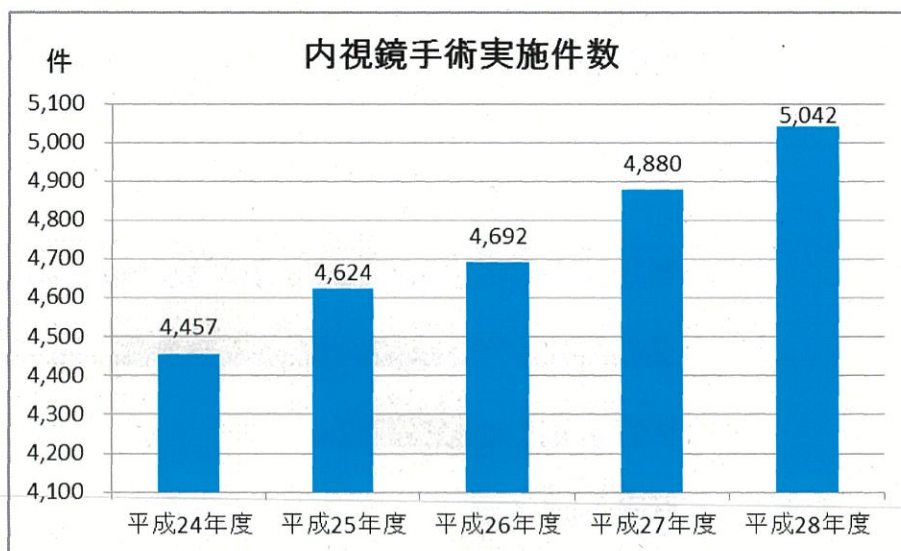
◆当センターが提供する高度専門医療

○内視鏡手術

低侵襲治療である内視鏡手術を積極的に実施し、その件数は年々増加している。

また、適応症例の拡大にも迅速に対応するとともに、高度進行がんに対する内視鏡手術においても、良好な成績を示している。

また、手術支援ロボットを用いた手術では、前立腺がんが保険適用となった当初から先進的に行っており、平成29年3月には胃がんに対する治療も導入した。



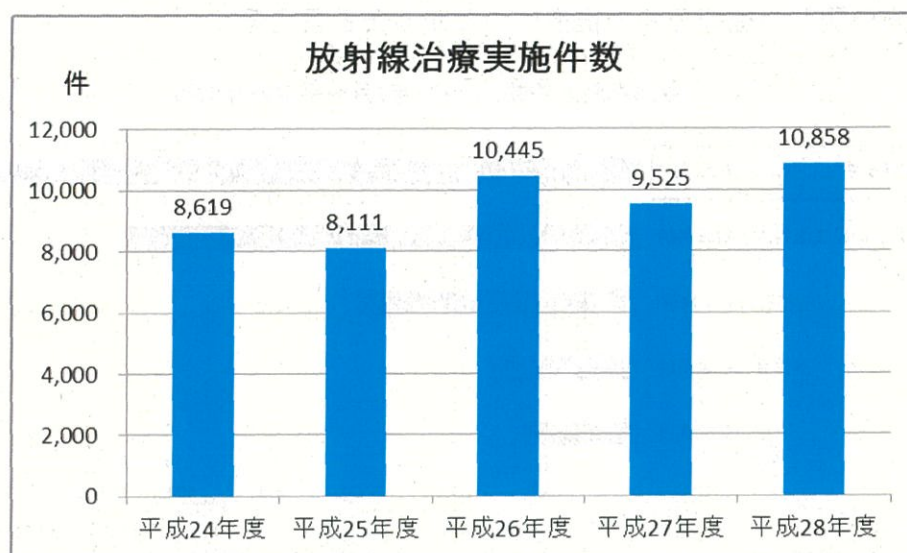


## ○放射線治療

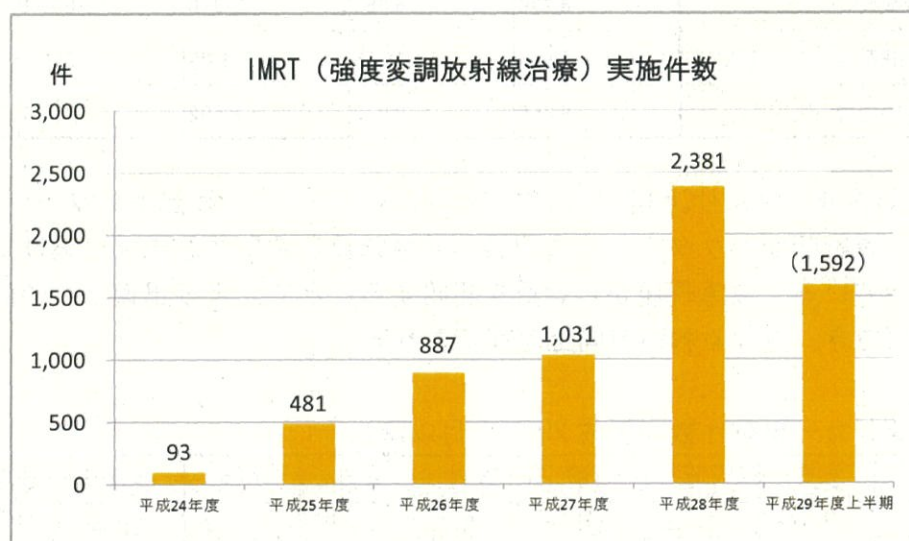
外部照射装置（リニアック 2 台）、小線源治療（マイクロセレクトロン 1 台）を主たる治療手法として年間 500 名程度の新規患者の治療を行っており、和歌山県内でも有数の治療件数を誇る。

高精度放射線治療として、頭頸部がん、前立腺がん、消化器がん、婦人科がんなどに IMRT（強度変調放射線治療）を実施しており、肺や脳腫瘍への SRT（定位照射）にも積極的に取り組んでいる。

放射線治療科部と各診療科が密な連携をとり、患者個々の病態に応じた高度ながん診療の提供に努めている。



IMRT 実施件数については、年々増加傾向にあり、平成 28 年度以降は大幅な伸びを示している。平成 29 年度は、さらに昨年度を大幅に上回る見込みである。

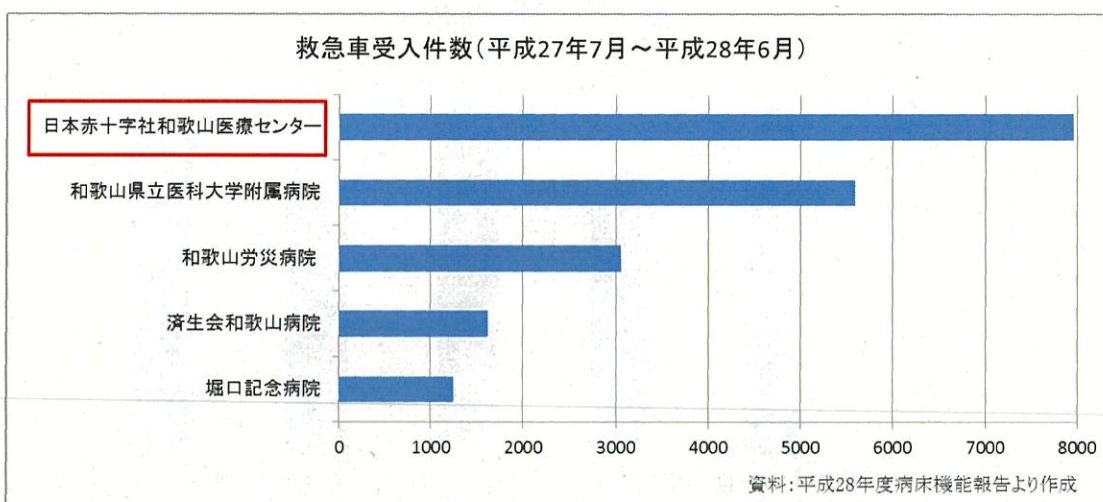


## ◆当センターが担う政策医療について

### ○救急医療について

昭和 61 年に県下初の救命救急センターを開設し、平成 23 年 4 月より高度救命救急センターに指定された。現在、集中治療室（ICU・CCU）30 床、救命救急病室 44 床を有し、地域の医療機関や消防（搬送機関）と密な連携を取りながら運営し、大阪府南部地域からの救急患者も多く受け入れている。

平成 28 年度では 23,665 人の救急患者を受け入れ、救急車による搬送件数も年間 8,000 件を超えた。平成 27 年度より時間外選定療養費の徴収を開始したことが影響し、救急患者数は減少したが、救急入院数はむしろ増加傾向にあり、地域の二次救急医療機関との機能分担の推進につながったと言える。



	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
救急患者数(人) ①	35,249	33,380	32,241	24,941	23,665
内入院数(人) ②	6,776	6,353	6,310	6,254	6,573
救急入院割合(%) ②/①	19.2%	19.0%	19.6%	25.1%	27.8%
救急車搬送数(件)	9,366	8,972	8,592	7,878	8,146

平成 29 年 1 月より、和歌山市救急ワークステーションが当センター内に設置され、医師・看護師がドクターカーに同乗し救急隊員と共に救急現場に駆けつける取組みを行っている。救急現場から診療を開始することで、より迅速かつ的確な救急医療を提供でき、更なる救命率向上が期待される。

### ドクターカー出動件数(平成 29 年 1 月以降)

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	計
24 件	43 件	39 件	25 件	26 件	37 件	31 件	28 件	23 件	276 件



## ○災害医療について

赤十字病院の使命である「災害医療」は、当センターが担うべき重要な役割のひとつであり、和歌山県総合災害医療センターにも指定されている。

当センターでは1チーム7名（医師1、看護師長1、看護師3、薬剤師1、主事1）で構成される常備救護班7個班及びDMAT隊員15名（医師5、看護師6、業務調整委員4）を有し、院内外の様々な訓練・研修に積極的に参加し、スキルアップを行うことで、災害発生時には迅速に被災地へ向かい、被災者を救護する体制を整えている。

国内災害においては、平成23年3月の東日本大震災では106名、平成28年4月の熊本地震では70名の職員を派遣するなど、これまでに延べ331名（平成29年9月現在）の職員が救護活動に従事した。近い将来発生が予想されている南海トラフ地震においても、当センターが和歌山県北中部地域での災害医療の中心的な役割（DMAT活動拠点本部等）を期待されており、総合的な災害対応力を展開すべく訓練や研修会を定期的に行い、体制強化に努めている。

年度	訓練名称	参加チーム	参加者数
平成26年度	第20回日本赤十字社第4ブロック合同災害救護訓練	常備救護班	16名
	第1回近畿地方DMATブロック訓練(ロジスティック研修)	DMAT	2名
	平成26年度広域医療搬送訓練	DMAT	4名
	和歌山県広域医療搬送訓練	DMAT	4名
	大規模津波防災総合訓練	常備救護班	7名
	和歌山県石油コンビナート防災訓練	常備救護班	7名
	近畿管区広域緊急援助隊合同訓練	常備救護班	15名
	和歌山県災害医療従事者研修会	常備救護班	7名
	「南海トラフ巨大地震」津波災害連携実践訓練	DMAT	5名
平成27年度	第21回日本赤十字社第4ブロック合同救護訓練	常備救護班	51名
	和歌山県石油コンビナート防災訓練	常備救護班	7名
	和歌山県津波災害対応実践訓練	DMAT	5名
	和歌山県災害医療従事者研修会	DMAT、常備救護班	12名
	DMATブロック訓練(和歌山県開催)	DMAT	8名
	院内災害訓練	院内職員	161名
	津波災害対応実践訓練	DMAT	4名
平成28年度	日本赤十字社第3ブロック訓練(隣接県救援訓練)	常備救護班	10名
	和歌山県石油コンビナート防災訓練	常備救護班	7名
	大規模地震等災害対応実践訓練(消防)	DMAT	4名
	陸上自衛隊中部方面ヘリコプター隊との合同訓練	常備救護班、DMAT	33名



### 熊本地震災害派遣人員（平成 28 年度）

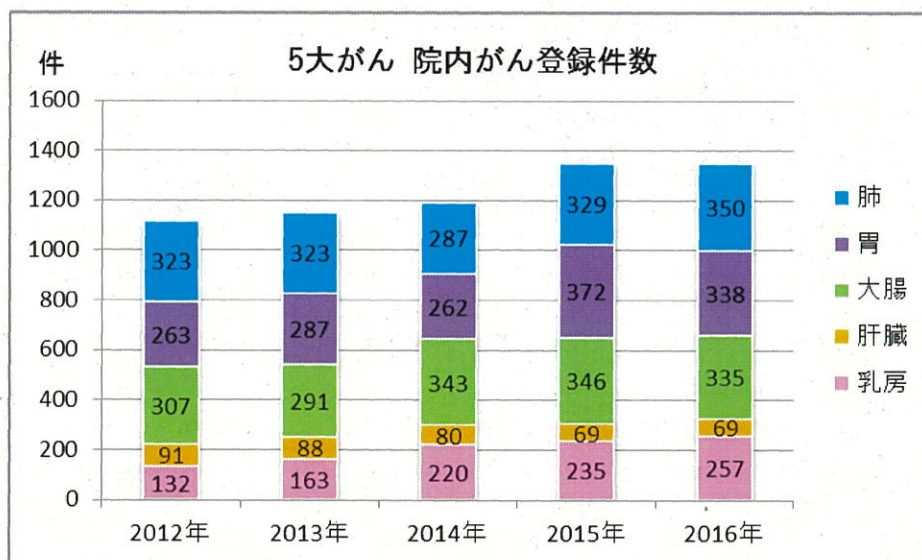
派遣内容	派遣数	派遣人員職種別内訳				
		医師	看護師	コメディカル	事務	計
DMAT	1 チーム	2 名	2 名		1 名	5 名
救護班	5 班	5 名	20 名	8 名	4 名	37 名
病院支援	7 班	5 名	14 名		4 名	23 名
心のケア	5 名		4 名	1 名		5 名
計		12 名	40 名	9 名	9 名	70 名

### 〇がん医療

地域がん診療連携拠点病院として当県のがん医療強化において大きな責務を担っている。最新鋭のCT撮影装置、MRI等の高度検査機器や手術支援ロボット、手術ナビゲーションシステム、3D内視鏡システム等の手術機器及びリニアック等の放射線治療装置を備えるとともに、通院治療室（外来化学療法室）を整備し、手術、放射線治療及び化学療法を効果的に組み合わせた、集学的治療を実施している。

以下に過去5年間の当センターがん診療実績を示す。いずれの症例数も全国的に見てトップクラスの実績を示している。

項 目	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
悪性腫瘍手術件数	1, 285 件	1, 364 件	1, 394 件	1, 474 件	1, 432 件
放射線治療件数	8, 619 件	8, 111 件	10, 445 件	9, 525 件	10, 858 件
化学療法実施件数	7, 447 件	8, 539 件	8, 889 件	8, 345 件	9, 432 件





## ○脳卒中

これまで、脳神経外科、神経内科、神経救急部が連携し 24 時間体制で診療を担当している。血管内治療に加え、発症 4.5 時間以内の脳梗塞患者に対して t-PA（アルテプラゼ静注）療法を積極的に行っている。

また、急性期リハビリテーションを実施し、早期社会復帰や再発予防、更にその後の快適で質の良い生活の維持をめざしている。

項 目	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
超急性期脳卒中加算 件数	14 件	15 件	11 件	3 件	7 件
血管内手術件数（※）	36 件	28 件	22 件	30 件	29 件

※脳梗塞、脳出血、破裂脳動脈瘤に対しての血管内手術件数

## ○心筋梗塞等の心血管疾患

循環器内科と心臓血管外科が連携し、24 時間体制で診療にあたっている。カテーテルによる低侵襲治療を行うための治療室（カテーテル室）を 4 室設置し、重篤な血管病に対しては外科的治療を積極的に行っている。

また、急性心筋梗塞や心不全、心臓手術後等の患者さんに対し発症後早期より心臓リハビリテーションを実施し、早期社会復帰や再発予防、更にその後の快適で質の良い生活の維持をめざしている。

さらに、不整脈治療も積極的に行っており、経皮的カテーテル心筋焼灼術（アブレーション）の実施件数も年々増加している。

項 目	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
経皮的冠動脈ステント留置術件数	340 件	270 件	271 件	297 件	293 件
経皮的冠動脈形成術件数	41 件	26 件	20 件	32 件	24 件
経皮的カテーテル心筋焼灼術件数	71 件	91 件	139 件	240 件	328 件



## ○糖尿病

糖尿病・内分泌内科を設置し、医師をはじめとして糖尿病看護認定看護師や糖尿病療養指導士の資格を有する看護師、管理栄養士等の多職種でのチーム医療を推進し、糖尿病合併症管理料、糖尿病透析予防指導管理料の施設基準を取得している。

入院診療では、外来での治療が困難な糖尿病に対しての教育入院、投薬調整、合併症精査等を行うとともに、他疾患で入院中の症例に対する血糖コントロールも実施している。

また、糖尿病管理の面から重要となる栄養指導についても、外来では指導室（2室）での運用に加え、糖尿病・内分泌内科外来での指導、血液浄化センターでの透析患者さんへの指導も積極的に行い、糖尿病患者の再燃予防や寛解維持に努めている。

項 目		平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
糖尿病・内分泌内科 患者数	外来（延）	21,840 人	23,144 人	24,655 件	24,778 件	26,881 件
	入院（延）	3,313 人	2,324 人	3,034 人	3,862 人	3,153 人
	紹介数	233 人	213 人	238 人	257 人	229 人
	逆紹介数	193 人	332 人	413 人	259 人	328 人

## ○精神疾患

認知症を併存する患者さんへの急性期における精神科医の早期介入が極めて重要であることから、救急患者さんへの精神科医介入体制の強化を図っている。また認知症ケアチームを立ち上げ、入院加療中の認知症患者への支援、超高齢化の当県の実情に即した医療の提供、さらには児童思春期専門の臨床心理士による児童精神保健福祉対策の充実などに力を入れている。

項 目	平成 28 年 6 月	平成 28 年 7 月	平成 28 年 8 月	平成 28 年 9 月	平成 28 年 10 月
認知症ケア加算取得 件数	141 件	287 件	334 件	385 件	378 件
	平成 28 年 11 月	平成 28 年 12 月	平成 29 年 1 月	平成 29 年 2 月	平成 29 年 3 月
	385 件	239 件	402 件	418 件	417 件

※平成 28 年 6 月より届出



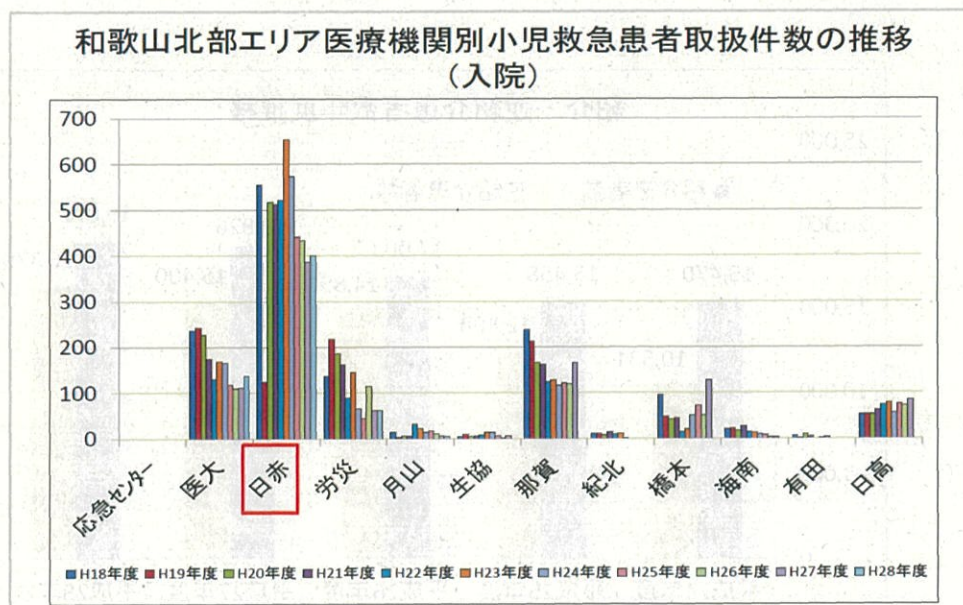
### ○周産期医療、小児医療（小児救急医療を含む。）

地域周産期母子医療センターとしてNICU 9床、GCU 6床を有している。産婦人科、小児科、小児外科が連携し、産科緊急手術やハイリスク妊娠分娩に対応し、平成28年度分娩件数は815件であった。地域連携を積極的に推進し、セミ・オープンシステム利用152件、フル・オープンシステム利用1件と県下の周産期医療の中核を担っており、過去に分娩制限をしたことはない。加えて、8年前に院内助産システムを開設し、アドバンス助産師17名を保有するセンターである。

項 目	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
分娩件数	910件	939件	859件	862件	815件
セミオープン及びオープンシステム分娩件数（再掲）	140件	143件	139件	167件	153件
里帰り分娩件数（再掲）	212件	212件	186件	197件	188件

和歌山・有田保健医療圏における周産期ネットワーク協議会資料より

新生児・小児医療では、未熟児・新生児医療、急性疾患の治療ならびに慢性疾患の継続的医療を通して成育医療を実践している。小児救急は、1次から3次救急を受入れ、夜間・休日では和歌山北部小児救急医療ネットワーク “すこやかキッズ” における2次3次救急医療を担当し、和歌山の小児救急医療の中心的存在を担っている。近年増加している虐待や養育困難な事例は、行政機関などとも連携し対応しており、平成28年では、児童相談所からの保護後の診療はすべて当センターが担当した。



H29. 6. 8 すこやかキッズ連絡調整会議資料より



## ○医療連携

当センターは、地域完結型の医療を目指して、地域医療連携を病院運営の柱として推進してきた。地域の医療機関の先生方と相互に協力し、適切で切れ目のない医療の提供を目的として、平成12年より「医療連携ネットワーク」を設立した。平成28年度からは、さらなる医療連携の強化を図るため「医療連携総合支援センター」を設置し、他医療機関からの紹介に対する円滑な診察・検査予約、地域の先生方へ適切な診療情報の提供等に努めている。

入院患者については、急性期治療の終了後に適切な転院をしていただくため、連携医療機関と密に情報交換を行っている。

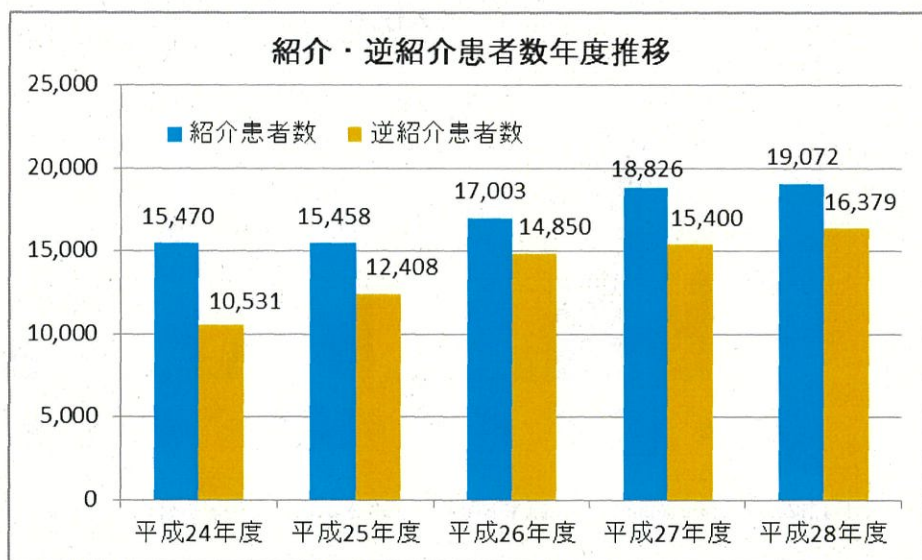
### 【連携推進のための主な取り組み】

- ・「医療連携ネットワークの集い」の開催
- ・和歌山市医師会との合同学術講演会の開催
- ・「地域医療連携和歌山ネットワーク(実務者)の会」の開催
- ・診療科主催の研修会・症例検討会開催
- ・地域連携パス情報交換会の開催
- ・広報誌「ガイダンス」の発行
- ・広報誌「医療連携だより」の発行

### 【医療連携ネットワーク会員】(平成29年4月1日現在)

登録医療機関数 542 施設

登録医数 640 人





#### ④当センターの課題

これまで当センターが、地域の中核病院として担ってきた高度急性期・急性期医療の継続のためには、設備の維持や専門医療者の確保等が必須である。そのためには、継続的な最新鋭設備への更新、人材育成のための教育体制のさらなる充実が求められる。

以上のことは、当然のことながら健全な病院運営の維持が前提となるので、より効率的な医療の提供に努めていく必要がある。

また、高度救命救急センターとして救急医療の強化はもとより、南海トラフ地震に備えた災害医療体制整備のため、定期的な訓練等の継続が不可欠であり、赤十字病院としての使命でもある。

## 【2. 今後の方針】

### ① 地域において今後担うべき役割

#### 1) 高度で専門的な医療の提供

当センターは、引き続き高度急性期医療ならびに急性期医療の中核病院としての機能を存分に発揮し続けることが求められている。

前項で述べた、内視鏡手術や放射線治療をはじめとする高度で専門的な医療のさらなる充実ため邁進するとともに、生活習慣病や周産期・小児医療を含む、全ての標準的な医療に対応し、全県的に必要とされる医療を提供する。

#### 2) 救急医療体制の継続

引き続き1次から3次まであらゆる救急患者に対応すべく、24時間体制で患者の受け入れを行っていく。そして全科参加型救急として、専門的な救急診療体制を継続していく。

#### 3) がん診療システムの充実

がんの発見（検診）、診断、治療、治療途中の救急体制、そして社会復帰への支援（あるいは終末期の緩和医療）について、途切れの無い医療を推進する。そして赤十字の垣根の低い医療を最大限に活用し、患者個々の背景や人間関係を理解し、それぞれに抱えている問題に対して全人的（身体的、精神・心理的、社会的）にアプローチするがん診療システムを構築していく。

なお、平成30年度には緩和ケア病棟を開設し終末期医療の充実を図る予定である。

#### 4) 災害救護体制の強化

将来予想されている東南海地震に対して、院内の災害対策訓練、自衛隊や DMAT との合同訓練を引き続き行っていく。また、他地域への災害救護体制も、従前どおり救護班を複数班編成し訓練を継続していく。

### ② 今後持つべき病床機能

2025 年においても、高度で専門的な医療を担う高度急性期、急性期機能を維持するとともに高度救命救急センターや和歌山県総合災害医療センターなどの役割を果たし、地域における中核病院としての機能が十分発揮されるよう運営に努める。

一方で、和歌山医療圏及び和歌山県においては、回復期機能病床が不足していることから、地域からの要請があった場合、同機能の一翼を担うことも検討する必要がある。

### ③ その他見直すべき点

今後、在宅医療を担う医療従事者の研修の実施や後方病院との連携会議の開催等、さらなる地域連携病院との関係強化を図る。

## 【3. 具体的な計画】

### ① 4 機能ごとの病床のあり方について

＜今後の方針＞

	現在 (平成 28 年度病床機能報告)		将来 (2025 年度)
高度急性期	596 床	→	616 床
急性期	156 床		156 床
回復期			
慢性期			
(合計)	752 床		772 床

従前どおり、主に高度急性期医療の提供を継続していく責務があると考えており、2025 年度の機能毎の病床数に関しては、今後、関係機関との協議の上検討していく必要がある。

なお現在、2018 年度中の緩和ケア病棟開設に向け、設備等を含めた体制づくりに取り組んでいる。



＜年次スケジュール＞

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度	○合意形成に向けた協議	○自施設の今後の病床のあり方を決定（本プラン策定）	
2018年度	○地域医療構想調整会議における合意形成に向け検討	○地域医療構想調整会議において自施設の病床のあり方に関する合意を得る  ○緩和ケア病棟開設	
2019～2020年度			
2021～2023年度			

②診療科の見直しについて

現時点で見直しの予定なし。

③その他の数値目標

医療提供・経営に関する項目

項目名	数値目標	算出式
病床稼働率	87.0%	$(\text{入院患者延数}) \div (\text{稼働病床数} \times \text{稼働日数}) \times 100$
手術室稼働率	140.0%	$(\text{手術室で行った手術件数}) \div (\text{手術室数} \times \text{稼働日数}) \times 100$
紹介率	65.0%	$(\text{年間紹介患者数}) \div (\text{年間初診患者数}) \times 100$
逆紹介率	80.0%	$(\text{年間逆紹介患者数}) \div (\text{年間初診患者数}) \times 100$
人件費率	46.0%	$(\text{給与費} \div \text{収益的収入}) \times 100$
医業収益に占める 人材育成にかかる 費用の割合	0.35%	$(\text{研究研修費} \div \text{医業収益}) \times 100$

#### 【4. その他】

##### 当センターが取り組むその他の事業

##### ○人材確保と育成

###### ＜医師臨床研修＞

当センターは基幹型臨床研修病院として、将来、地域医療を担う医師の育成に取り組んでいる。地域の中核病院として救急から高度医療まで豊富な症例数を活かし、すべての医療を経験できること等を背景に例年フルマッチしている。地域医療の研修協力施設では白浜はまゆう病院、串本有田病院、高野町立総合診療所があり、全国から集まった初期研修医が和歌山県の地域医療を学び貢献している。

また 2018 年度から開始される新専門医制度においては、内科、外科、整形外科、救急科、麻酔科、産婦人科、小児科の 7 つの基盤領域で基幹施設として認定されており、専門医を育成し地域医療に貢献する。

###### 当センター初期臨床研修プログラム

	募集定員	応募人数	マッチング人数
平成 29 年度	16 人	41 人	16 人
平成 28 年度	18 人	39 人	18 人
平成 27 年度	16 人	26 人	16 人

###### ＜看護師＞

当センターの看護部は、110 年を超える看護の積み重ねで、“地域からの高い信頼”と“赤十字の看護師としての誇り”を与えられている。

地域の看護の質向上を視野に入れた、充実した教育システムやキャリア開発ラダー制度（看護実践者・看護管理者・看護教員・国際活動要員）を活用した人材育成が特化する活動である。

地域唯一の赤十字病院として期待される看護は、次の“今も昔も変わらぬ実践 3 本柱”である。

1. 高度救命救急医療を担う、質の高い“おもいやりのある看護”の実践
2. 国内外の災害救護活動を使命として“救護員としての赤十字看護師”の実践
3. 生活に踏み込んだ“救急法”や“健康生活支援講習”など地域健康活動の担い手になる実践



【看護外来名】

1	ストーマ外来
2	フットケア外来
3	治療選択外来
4	在宅自己腹膜透析外来
5	在宅血液透析外来
6	ローリスク妊婦外来
7	母乳外来
8	児の2週間検診外来
9	禁煙外来
10	COPD 外来
11	造血幹細胞移植後フォローアップ外来
12	腎移植後外来
13	糖尿病透析予防外来
14	マタニティヨガ教室

【分野別 専門・認定看護師者数】 2017/11/1 現在

専門看護師	1	在宅看護	1名
	2	がん看護	1名
	3	家族支援	1名
	4	精神看護	1名

①小計 4名

認定看護師	1	救急看護	4名
	2	集中ケア	4名
	3	手術看護	1名
	4	皮膚・排泄ケア	3名
	5	感染管理	1名
	6	緩和ケア	2名
	7	脳卒中リハビリテーション看護	2名
	8	乳がん看護	2名
	9	新生児集中ケア	1名
	10	認知症看護	1名
	11	がん性疼痛看護	1名
	12	透析看護	1名
	13	不妊症看護	1名
	14	慢性心不全看護	1名

②小計 25名

認定看護管理者

③小計 7名

①+②+③合計 36名

＜病院実習の受け入れ＞

当センターでは県内の学生をはじめ、医師や看護師、救急救命士等の多くの実習、研修を受け入れている。

病院実習受入人数（平成 28 年度）

医学生	60 人
看護学生	347 人
その他病院実習等 （他施設からの研修含む）	245 人

## ○国際医療救援事業

当センターは、先に述べた国内を中心とした災害医療に加え、国際医療救援事業に取り組んでおり、日本赤十字社国際医療救援拠点病院に指定されている。

赤十字は、世界 190 の国と地域で活動する世界最大の人道支援団体である。当センターからは、1980 年にエチオピア連邦民主共和国へ助産師を派遣したのを最初に、和歌山から世界へ延べ 146 人の職員が 38 カ国で活動してきた。

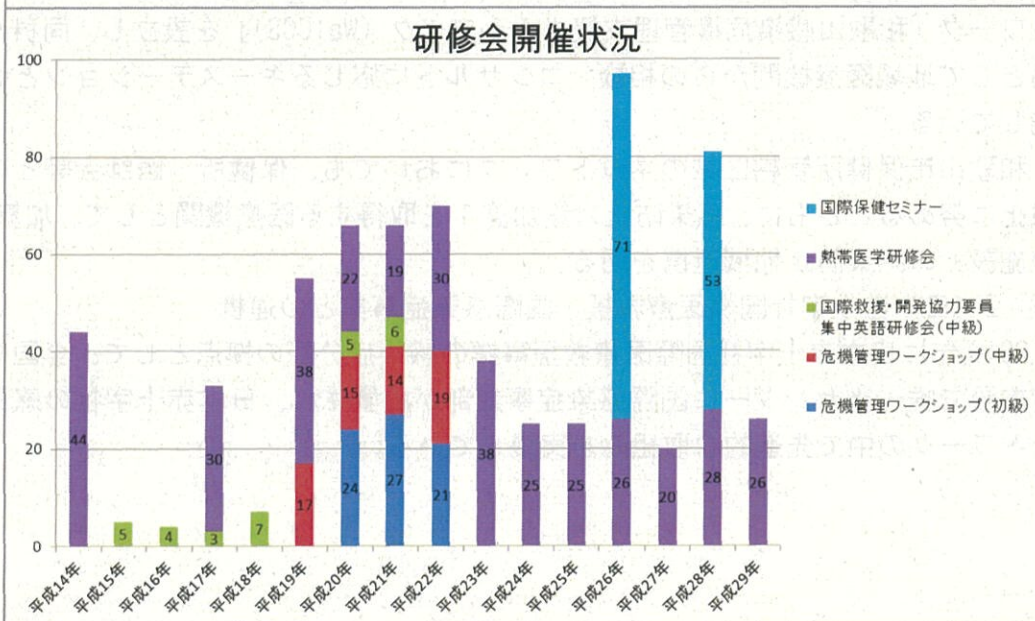
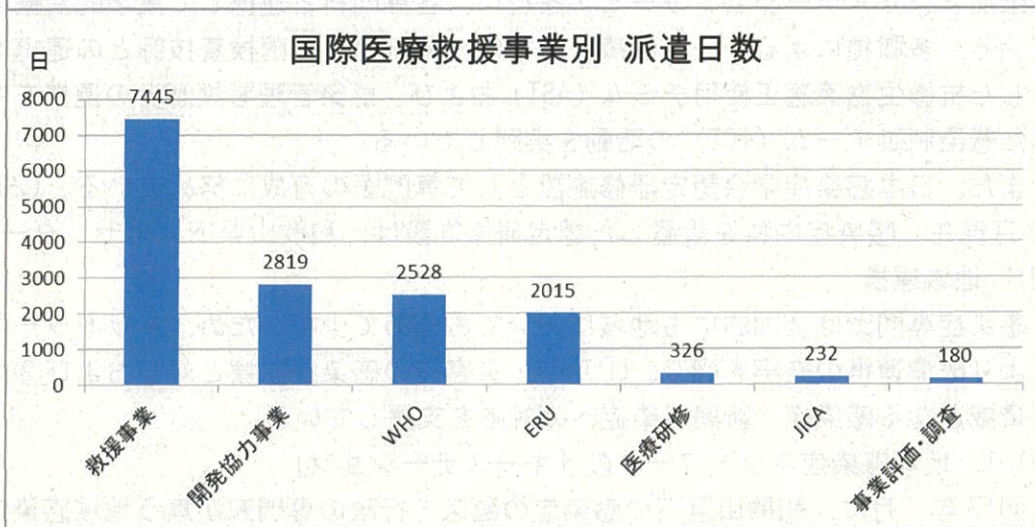
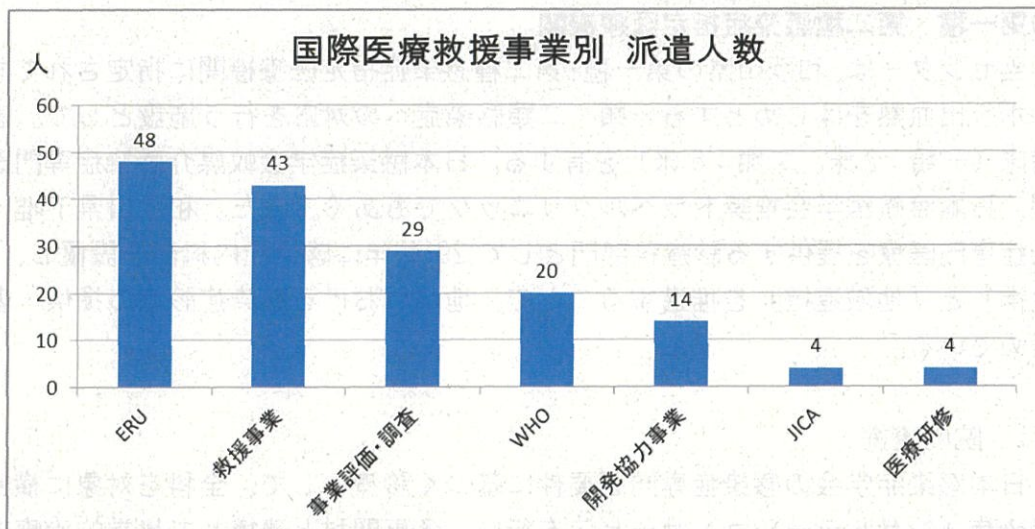
以前より、院内に設置の国際医療救援部を中心として、海外でも活動できる職員の育成を行っており、2017 年 9 月現在、21 名の職員（医師 7 名、薬剤師 1 名、助産師 2 名、看護師 6 名、診療放射線技師 2 名、臨床検査技師 1 名、事務 2 名）が日本赤十字社の国際医療救援・開発協力の一員として登録している。これらの職員は、普段は外来や病棟などで通常業務に携わり、日本赤十字社を通じた国際赤十字からの派遣依頼に基づいて、国境や宗教、人種を超えて人の命と健康、尊厳を守るため人道支援活動に従事している。

また、地震などの緊急救援において職員を派遣するだけでなく、平時より職員の能力強化のために勉強会を開催している。特に感染症に対する知識修得のため毎年定期的に熱帯医学研修を開催している。

また、2016 年 7 月に日本赤十字社として唯一、当センターに国際感染症事業部が設置された。「Act Globally Think Locally」をモットーに赤十字を含む国内外の専門機関との関係構築や支援、最新の感染症情報の収集と共有、在外日本赤十字社職員への感染症に対する安全対策支援など、包括的な感染症対策活動を通して、赤十字活動に寄与している。

これまで、リベリア共和国でのエボラ出血熱やソマリア連邦共和国でのコレラ支援、世界保健機関（WHO）西太平洋事務局や WHO ベトナム国事務所で鳥インフルエンザや新興再興感染症の対策に貢献するなど、専門的な支援を展開している。







## ○第一種・第二種感染症指定医療機関

当センターは、和歌山県の第一種・第二種感染症指定医療機関に指定されており、エボラ出血熱をはじめとする一類・二類感染症への対応を行う施設として、感染症病床（一類：2床、二類：6床）を有する。日本感染症学会蚊媒介感染症専門医療機関、日本渡航医学会推奨トラベルクリニックでもある。また、和歌山県下唯一の感染症専門医療を提供する診療科部門として 2011 年に感染症内科部を設置し、「院内連携」と「地域連携」を推進することで、地域における感染症診療の提供・普及に努めている。

### (1) 院内連携

日本感染症学会の感染症専門医要件に基づく診療として、全科を対象に横断的な感染症コンサルテーションサービスを行い、各専門科と連携して集学的治療を行っている。多職種によるチーム医療としては、薬剤師・細菌検査技師との連携を中心とした抗微生物薬適正使用チーム（AST）および、感染管理看護師との連携を中心とした感染制御チーム（ICT）の活動を実践している。

また、日本感染症学会認定研修施設として専門医の育成に努めている。（2017 年 10 月現在、感染症内科を設置した認定研修施設は、和歌山県下で当センターのみ）

### (2) 地域連携

感染症専門医は全国的にも地域においても極めて少ないため、ネットワーキングにより医療連携の充実を図り、①平時・災害時の感染症診療と対策および②国際的に脅威となる感染症・新興感染症への対応を支援している。

#### (2)-1 地域感染症ネットワークの「キーステーション」

2017 年 7 月に、和歌山県下の感染症の臨床・行政の専門家が集う地域感染症ネットワーク「和歌山感染危機管理支援ネットワーク（WaICCS）」を設立し、同科が事務局として地域医療機関からの相談・コンサルトに応じるキーステーションとして機能している。

和歌山市保健所管轄区域のネットワークにおいても、保健所・医師会等との連携強化に努めるとともに、感染防止対策加算 1 を取得する医療機関として、加算 1・2 の施設との感染防止地域連携を図る。

#### (2)-2 日本赤十字社国際医療救援・国際感染症事業との連携

2016 年に日本赤十字社国際医療救援事業の感染症分野の拠点として、全国の赤十字施設で唯一当センターに国際感染症事業部が設置され、日本赤十字社の感染症ネットワークの中で先進的な取り組みを実践している。



## ○県民大学

赤十字活動の一環として、疾病、健康を中心に、さらに生きる喜びを深く知るために昭和54年から毎年、「健康と病気」、「家庭での介護」、「病気と食物」の3講座を開講している。

### 平成29年度県民大学カリキュラム

開講日	健康と病気	家庭での介護	病気と食物
	テーマ「がん・生活習慣病」 講義・講師名	講義・講師名	講義・講師名
開講式 9/16 (土)	和歌山県における保健・医療対策 和歌山県健康局長 野尻 孝子 がん治療最前線 院長 平岡 真寛	元気で長生きするために 赤十字健康生活 井原 かおり 支援講習指導員	高血圧症予防の食事 管理栄養士 山本 陽子
10/28 (土)	肝胆膵がんの内科治療 副院長兼消化器内科部長 山下 幸孝 肝胆膵がんの外科治療 肝胆膵外科部長 安近 健太郎	からだの動かし方 赤十字健康生活 寺前 和美 支援講習指導員	貧血予防の食事 管理栄養士 奥 智子
11/18 (土)	肺がんの診断と内科治療 呼吸器内科部長 杉田 孝和 肺がんの外科治療 呼吸器外科部長 石川 将史	食事・排泄のお世話 赤十字健康生活 日浦 恵子 支援講習指導員	骨粗鬆症予防の食事 管理栄養士 山本 陽子
12/9 (土)	心不全について 循環器内科部長 田村 崇 心不全の外科治療-弱った心臓を手術で治す- 心臓血管外科部長 岩倉 篤	からだの清潔と着替えの仕方 赤十字健康生活 岡田 静香 支援講習指導員	脂質異常症予防の食事 管理栄養士 奥 智子
1/20 (土)	神経内科の病気 神経内科部長 山下 博史 脳卒中の最新治療 脳神経外科部長 津浦 光晴	認知症高齢者への対応 ・癒しのハンドケア 赤十字健康生活 北山 加津子 支援講習指導員	便秘症予防の食事 管理栄養士 山本 陽子
閉講式 2/17 (土)	より良い視力を維持するために 眼科部長 大谷 篤史 耳から起こる病気-難聴とめまい- 耳鼻咽喉科部長 三浦 誠	災害時に役立つ知識 ・幼児安全法 赤十字健康生活 久世 祐子 支援講習指導員	糖尿病予防の食事 管理栄養士 奥 智子

講座名	健康と病気	家庭での介護	病気と食物	計
平成28年度受講者数	151	31	55	237

## ○臨床研究

臨床研究は、地域に提供する医療の質の向上に寄与するものであり、公的病院としても積極的に参画すべきであると考えている。当センターでは、組織内に臨床研究センターを設置し、研究活動の促進に努めている。

また、平成29年8月には、科学研究費助成事業における研究機関として承認され、機関番号を取得した。





済生会和歌山病院  
公的医療機関等 2025 プラン



平成 29 年 9 月 策定

## 【済生会和歌山病院の基本情報】

医療機関名：

社会福祉法人<sup>恩賜財団</sup>済生会和歌山病院

開設主体：

社会福祉法人<sup>恩賜財団</sup>済生会

所在地：

和歌山県和歌山市十二番丁 45 番地

許可病床数：

（病床の種別）一般病床 200 床

（病床機能別）急性期 160 床 ・ 回復期 40 床

稼働病床数：

（病床の種別）一般病床 200 床

（病床機能別）急性期 160 床 ・ 回復期 40 床

診療科目：

内科、糖尿病・代謝内科、消化器内科、循環器内科、外科、整形外科、脳神経外科、  
心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、  
放射線科、人工透析内科、麻酔科 （計 16 科目）

職員数：

・ 医師	45 名	（内	17 名）
・ 看護職員	212 名	（内	20 名）
・ 医療技術職	53 名	（内	1 名）
・ 事務職	64 名	（内	38 名）
・ 技能労務職	24 名	（内	21 名）
合 計	398 名	（内	97 名）

（ ）内は、非常勤職員数



## 【1. 現状と課題】

### ① 構想区域の現状

#### 和歌山圏域の状況

##### 1. 和歌山圏域の現状と基本的事項

当院が属する和歌山医療圏は、2市1町(和歌山市、海南市、紀美野町)で構成されており、面積は438.724 km<sup>2</sup>となっています。

また、和歌山圏域の総人口は435,538人(うち65歳未満318,817人、65歳以上人口116,721人、75歳以上人口57,002人:2010年)となっています。

区 分		和歌山圏域	全 圏
構成市町村数		2市1町	9市20町1村
面積(対全圏比)		438.73 km <sup>2</sup> (9.3%)	4,724.68 km <sup>2</sup>
人 口	総人口(対全圏比)	435,538人 (43.4%)	1,002,198人
	65歳未満人口	318,817人	728,005人
	65歳以上人口	116,721人	274,193人
	75歳以上人口	57,002人	140,780人

(和歌山県地域医療構想より)

##### 2. 人口構造の変化の見通し

和歌山圏域内の総人口は今後減少の一途を辿ると推計される一方で、65歳以上高齢者人口に関しては、2025年(平成37年)に向けて増加していく見込みとなっています。

##### 3. 和歌山圏域における必要病床数等

医療機能	2025年における 医療需要(人/日)	2025年における 必要病床数(床)	【病床機能報告より】 2016年7月1日現在の 病床数(床)
①高度急性期	441	588	1,243
②急性期	1,306	1,674	2,623
③回復期	1,652	1,836	541
④慢性期	794	863	1,417
分類なし	—	—	250
計	4,193	4,961	6,074



## ② 構想区域の課題

### 和歌山圏域における課題

#### 1. 人口構造の変化の見通し

2市1町(和歌山市・海南市・紀美野町)により構成される和歌山圏域内の総人口は全圏人口の4割超を占めています。

圏域の総人口については2025年(平成37年)に向けて減少の一途を辿ると推測される一方で、65歳以上の高齢者人口に関しては増加していく見込みです。

#### 2. 医療提供体制・疾病構造・患者の受療動向等

全圏の約半数の病院が和歌山圏域に所在し、高度急性期・急性期から回復期、慢性期に至るまでの各機能の医療を担っている現状にあります。

とりわけ、和歌山市内に36病院が集中するなど、圏内における医療資源が集中している現状です。

圏域内における自己完結率は高く、加えて圏外も含めた周辺圏域からの患者流入の受け皿としての役割を果たす一方で、療養病床に関しては大阪府(泉州圏域)への患者流出が見られます。

## ③ 済生会和歌山病院の現状

### 済生会和歌山病院の理念・基本方針

#### 「理念」

私たちは、地域社会に親しまれ、信頼され、患者さんも職員も元気が出る病院をめざします。

#### 「基本方針」

1. 急性期医療を基本に機能と特性を明確にする。
2. 患者さんの立場に立って、安全で質の高い医療を効率的に提供する。
3. 透明性、公共性を保ち、地域社会と連携を密にし、地域から求められる病院にする。



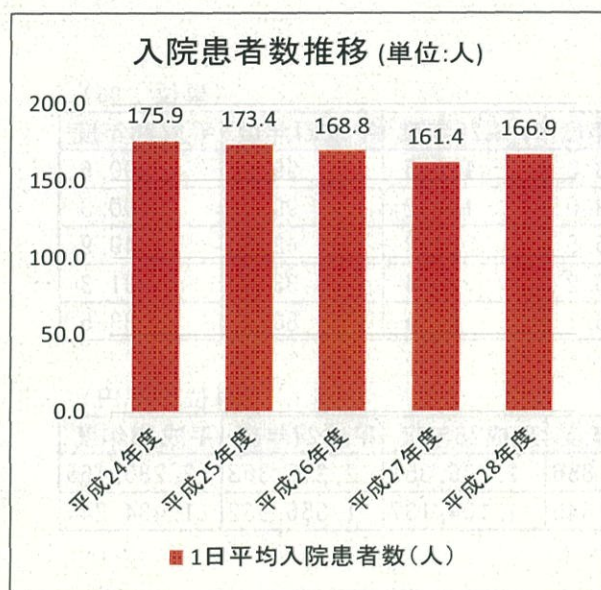
\* 現状分析を過去5年比較で表す。

## 入院・外来患者数の推移

平成28年度の入院患者数は60,925人、1日平均入院患者166.9人、病床利用率は83.5%  
 外来患者数は、73,754人、1日平均外来患者数は304.8人となっています。  
 急性期病院としての機能や役割を踏まえ、質の高い医療を提供し患者数の増加に努めたいと  
 考えています。

(単位:人、%)

		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
入 院	入院患者数(人)	64,216	63,274	61,622	59,070	60,925
	1日平均入院患者数(人)	175.9	173.4	168.8	161.4	166.9
	病床利用率(%)	88.0	86.7	84.4	80.7	83.5
外 来	外来患者数(人)	80,966	76,975	73,617	71,895	73,754
	1日平均外来患者数(人)	331.8	316.8	301.7	295.9	304.8





## 収益的支出の推移

当院は、平成 15 年 10 月に全面移転し、平成 20 年度までは赤字決算でしたが、平成 21 年度は移転後初の黒字決算となりました。この年は、DPC 対象病院となりました、7 対 1 看護配置を取得し看護体制の充実を図りました。しかし、平成 25 年度は電子カルテシステムの更新等に伴い再び赤字決算となりました。平成 26 年度は、経営改善委員会を立ち上げ改革に取り組みを行い再び黒字決算となりました。今後も安定した経営の維持を行い、地域の中核病院としての役割を担っていきたいと考えます。

(単位：千円)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
病院事業収益	4,376,548	4,227,837	4,181,599	4,600,354	4,576,639
（うち医業収益）	4,314,304	4,160,865	4,121,255	4,548,360	4,526,751
病院事業費用	4,196,126	4,312,907	4,159,122	4,603,650	4,550,187
（うち医業費用）	4,144,696	4,247,455	4,111,052	4,578,863	4,513,730
純損益	180,422	▲ 85,070	22,477	▲ 3,296	26,452
（医業収益）	169,608	▲ 86,590	10,203	▲ 30,503	13,021

## 財務に係る数値の推移

(単位：%)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
経常収支比率	104.3	98.0	100.5	99.9	100.6
医業収支比率	104.1	98.0	100.2	99.3	100.3
職員給与費比率	53.1	55.5	53.2	48.2	49.9
材料費比率	25.5	26.2	26.4	33.8	31.3
病床利用率	88.0	86.7	84.4	80.7	83.5

(単位：千円)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
給与費計	2,324,558	2,344,856	2,226,351	2,215,363	2,285,165
材料費計	1,115,751	1,106,645	1,104,137	1,556,332	1,434,244

## 医療機能に係る数値の推移

(単位：人、日、件)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
1日平均入院患者数（再掲）	175.9	173.4	168.8	161.4	166.9
1日平均外来患者数（再掲）	331.8	316.8	301.7	295.9	304.8
平均在院日数(200床)	16.7	17.8	18.7	17.1	16.9
平均在院日数(160床)	14.9	16.7	15.8	13.9	13.7
救急受入件数	2,367	2,103	2,682	2,728	2,215
手術件数	1,546	1,491	1,355	1,503	1,555



#### ④ 済生会和歌山病院の課題

- (1) 医師の確保
- (2) 救急医療体制の維持
- (3) 「災害支援病院」としての役割強化
- (4) がん診療連携を必要とする「地域がん診療病院」を目指す
- (5) 特定健診等の対応強化
- (6) 高額医療機器および建物附属設備の更新

【2. 今後の方針】 ※1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

平成 29 年 2 月 9 日 和歌山県医務課主催の和歌山保健医療圏構想区域における第 2 回調整会議の場において、「地域医療構想と公的病院のあり方」についての議論に参加させて頂きました。急性期病床は過剰になる事が推測されておりますが、地域的に救急医療を担う必要があり急性期病床で、公的病院として再編・ネットワークの効率化を図りたいと考えます。

南海トラフ沖地震など大規模な災害が発生した場合に備え、災害拠点病院を支援する「災害支援病院」としての医療体制の確保、役割を果たします。

がん対策として特定健診の充実を図り、特に内視鏡診断に重きを置き、病理診断の迅速化を進めます。

将来においては回復期の対応を進める必要があります。そのためにも回復期リハビリテーション病棟入院料の施設基準の見直しと休日リハビリテーション提供体制を充実させることで地域の方々から更に利用しやすい病院を目指します。

② 今後持つべき病床機能

市街地の公的病院としての役割分担から、災害医療・救急医療・主要疾病（がん、脳卒中、心筋梗塞等）に対応するためにも、現状の急性期病床 160 床を保持していかなければなりません。拠点病院と連携して拠点病院を補完できる支援体制を維持します。

将来的には回復期病床が不足する中で、現状の回復期病床 40 床を維持し、退院後のリハビリ的支援体制の強化についても努めていきます。

③ その他見直すべき点

地域の限られた医療資源の中で完結すべく地域連携室を中心に連携・ネットワークの強化・充実を図ります。



【3. 具体的な計画】 ※2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

＜今後の方針＞

	現在 (平成 28 年度病床機能報告)		将来 (2025 年度)
高度急性期	0	→	0
急性期	160		160
回復期	40		40
慢性期	0		0
(合計)	200		200

＜年次スケジュール＞

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017 年度	・ 連携・ネットワークの強化の一環として、登録医の数を増やす。	・ 紹介率、逆紹介率の 1% UP	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin-right: 10px; text-align: center;">           集中的な検討を促進 2 年間程度で         </div> <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid blue; padding: 10px; margin-bottom: 10px; text-align: center;">             第 7 期 介護保険 事業計画           </div> <div style="border: 1px solid blue; padding: 10px; text-align: center;">             第 8 期 介護保険 事業計画           </div> </div> <div style="border-left: 1px solid blue; border-right: 1px solid blue; padding: 0 5px; text-align: center; margin-left: 10px;">             第 7 次 医療計画           </div> </div>
2018 年度	・ 検診センター、人工関節センターを新設する。 ・ 回復期リハビリテーション病棟入院料の見直し。	・ 投資(新棟建設)した部分に見合う収益を上げる事で経営面の健全化を図る。 ・ 回復期リハビリテーション病棟入院料③→②に変更	
2019～2020 年度	・ 休日リハビリの提供を行う。 ・ 検診センター設立後の紹介率を上げる。	・ 休日リハビリテーション提供体制加算の取得。 ・ 紹介率の 1% UP	
2021～2023 年度	・ 検診センター設立後の紹介率を上げる。	・ 紹介率の 1% UP	

## ② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

### <今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025 年度)
維持	内科、糖尿病・代謝内科、消化器内科、循環器内科、外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、人工透析内科、麻酔科	→	内科、糖尿病・代謝内科、消化器内科、循環器内科、外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、人工透析内科、麻酔科
新設		→	検診センター 人工関節センター
廃止		→	
変更・統合		→	

## ③ その他の数値目標について

医療提供に関する項目			
	【過去 3 年実績】		【2023 年目標】
・ 病床稼働率 :	83.5%	→	88.0%
・ 手術室稼働率 :	55%	→	60%
・ 紹介率 :	62%	→	65%超え
・ 逆紹介率 :	44.8%	→	50%超え
経営に関する項目*			
・ 人件費率 :	52%		
・ 医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合 :	0.3%		
・ 別表 1 に収支計画(数値目標)を記載する			

\* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

## 【4. その他】

特記事項なし



# 独立行政法人労働者健康安全機構 和歌山労災病院 公的医療機関等2025プラン

平成29年12月 策定

【和歌山労災病院の基本情報】

医療機関名：和歌山労災病院

開設主体：独立行政法人労働者健康安全機構

所在地：和歌山県和歌山市木ノ本93-1

許可病床数：303床

（病床の種別）

ICU 4床

一般病床（7対1） 299床

（病床機能別）

高度急性期 4床

急性期 299床

稼働病床数：303床

（病床の種別）

ICU 4床

一般病床（7対1） 299床

（病床機能別）

高度急性期 4床

急性期 299床

診療科目：内科、血液内科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、小児科、外科  
呼吸器外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科  
リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、救急科、病理診断科

職員数（平成29年12月 1日現在）

・ 医師	正規職員	72名	、嘱託職員	14名
・ 看護師	正規職員	301名	、嘱託職員	15名
・ 医療職	正規職員	67名	、嘱託職員	8名
・ 事務職等	正規職員	26名	、嘱託職員	60名



## 【1. 現状と課題】

### ① 構想区域の現状

和歌山県において、地域医療構想における構想区域は保健医療計画における二次保険医療圏とされ、当院が所属する和歌山医療圏は和歌山市、海南市及び紀美野町の2市1町から構成されている。

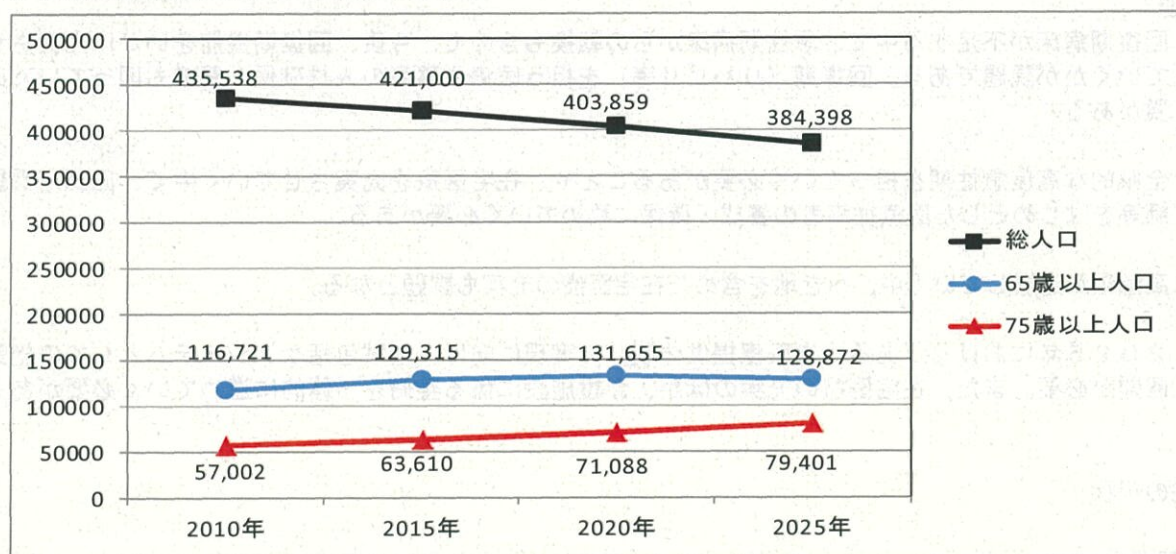
#### ○ 和歌山医療圏内の公立・公的医療機関の状況

医療機関名	所在地	病床数				
		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	分類なし
和歌山労災病院	和歌山市	4	299			
県立医科大学 附属病院		635	125			
日赤和歌山 医療センター		596	156			113
済生会 和歌山病院			160	40		
海南 医療センター	海南市	8	142			
国保野上 厚生総合病院	紀美野町		100		54	

(平成28年度 病床機能報告集計結果(和歌山県HP)より)

\* 病床機能報告では病床区分の分類についての考え方が各病院間で統一されていないため、今後、考え方の統一が必要と考えられる。

#### ○ 和歌山医療圏の人口及び高齢化の推移



(国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(平成25年3月推計)より)

	(2010年)	(2025年)	増減	増減率
総人口	435,538人	384,398人	▲51,140人	(▲ 11.7%)
65歳以上人口	116,721人	128,872人	+12,151人	(+10.4%)
75歳以上人口	57,002人	79,401人	+22,399人	(+39.3%)

2市1町により構成される和歌山医療圏の総人口は県内人口の約4割を占めている。

圏域内の人口は2025年に向けて減少の一途をたどると推計される一方、65歳以上高齢者人口に関しては増加していく見込みである。



全県の約半数の病院が和歌山圏域に所在し、高度急性期・急性期から回復期・慢性期に至るまでの各機能の医療を担っている現状にあり、とりわけ、和歌山市内には36病院が集中するなど、圏内における医療資源が集中している現状にある。

特定機能病院かつ高度救命救急センターである和歌山県立医科大学附属病院及び、高度救命救急センターである日本赤十字社和歌山医療センターが和歌山市内に所在し、和歌山労災病院を含め、全県的な高度急性期及び急性期医療を担っている。

圏域内における自己完結率は高く、加えて、県外を含めた周辺県域からの患者流入の受入先となっている一方で、療養病床に関しては大阪府（泉南圏域）への患者流出が見られる。

海南市及び紀美野町はへき地を抱える地域でもあるが、へき地医療拠点病院（国保野上厚生総合病院）が中心となり紀美野町内各診療所がへき地医療を担っている。

## ② 構想区域の課題

### ○ 和歌山医療圏の必要病床数

医療機能	2014年7月1日現在の病床数		2025年における必要病床数	2025年における医療需要（人/日）
① 高度急性期	1,644	➡	588 (▲ 1,056)	441
② 急性期	2,452		1,674 (▲ 778)	1,306
③ 回復期	495		1,836 (+ 1,341)	1,652
④ 慢性期	1,527		863 (▲ 664)	794
計	6,118		4,961 (▲ 1,157)	4,193

（和歌山県地域医療構想（平成28年5月）より）

### ○ 課題

- 回復期病床が不足する中で、急性期病床からの転換も含めて、今後、回復期機能をいかに充実させていくかが課題である。回復期（リハビリ等）を担う医療従事者の人材確保・養成も図っていく必要がある。
- 全県的な高度急性期を担っていく必要があることや、在宅医療を充実させていく中で、医師・看護師等をはじめとした医療従事者の養成・確保に務めていく必要がある。
- 高齢化が進展していく中、へき地を含めた在宅医療の充実も課題となる。
- 2025年における「あるべき医療提供体制」の実現に向け、地域包括ケアシステムとしての施策展開が必要。また、在宅医療の充実のほか、介護施設に係る整備を一体的に進めていく必要がある。

## ③ 当院の現状

### ○ 病院理念

「地域の人々と勤労者に、地域医療機関と密接に連携しつつ、安全に十分配慮した最適な医療を提供する。」

### ○ 基本方針

- ・私たちは、医療を受ける人々の「権利を尊重」します。
- ・私たちは、病める人々に「最適な医療」と「安らぎの場」を提供します。
- ・私たちは、質の高いサービスを効率よく提供するために「チーム医療」を行います。
- ・私たちは、「個性輝く、魅力あふれた病院」を目指します。
- ・私たちは、病院の理念の実現のために「健全な経営基盤を確立」します。

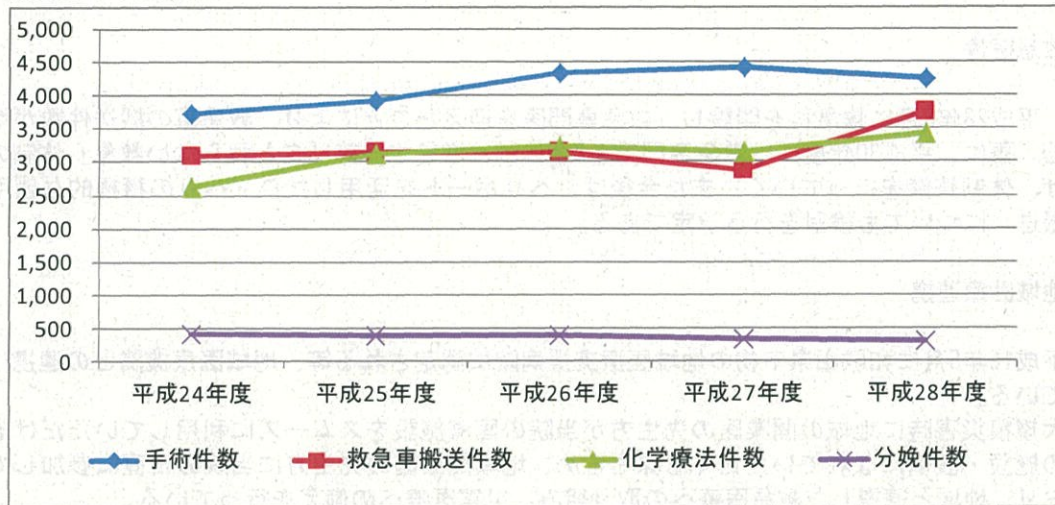


## ○ 診療実績

### a 患者数・病床利用率（平成28年度実績）

入院患者数（人／日）	265.0
病床利用率（％）	87.5
平均在院日数（日）	13.3
外来患者数（人／日）	863.0

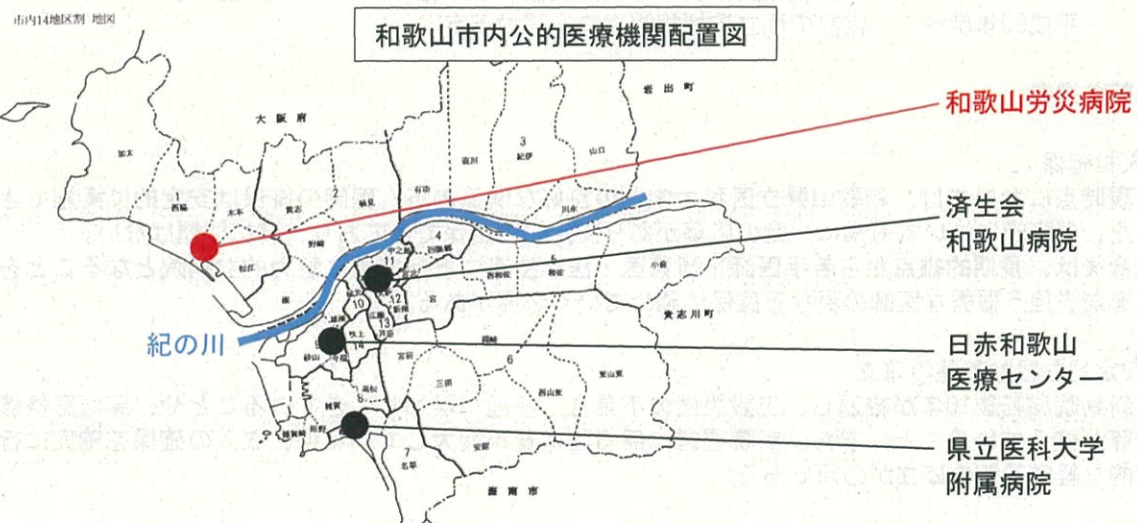
### b 診療実績の年度推移



	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
手術件数	3,720	3,917	4,339	4,414	4,246
救急車搬送件数	3,085	3,158	3,147	2,873	3,753
化学療法件数	2,626	3,125	3,238	3,157	3,427
分娩件数	431	394	380	334	314

## ○ 当院の特徴

### a 災害医療





和歌山市は、市中央部を流れる紀の川によって、市中心部を含む南側の地区と、北側の河北・河西地区に大きく分けられている。河北・河西地区は市内の約40%の人口を擁しているが、所在する公的医療機関は当院のみであり、他の公的医療機関は全て紀の川より南側の地域に所在している。

近い将来に発生が懸念されている南海トラフ地震等大災害発生時には、和歌山市は紀の川により交通網が分断される可能性が高い。

こういった地理的特性から、当院が中心となり河北・河西地区の災害医療を担う必要があるため、災害拠点病院としての機能充実を推進している。

- ・平成23年7月 和歌山DMA T 指定病院として指定
- ・平成24年3月 和歌山県災害拠点病院として指定
- ・平成27年7月 ヘリポートを備えた災害医療研修棟が竣工

#### b 救急医療

平成28年8月に救急科を開設し、救急専門医を迎えたことにより、救急車の搬送件数が増加している。更に、平成30年度には救急専門医を2名体制に増員する等「ことわらない救急」体制の実現に向け、体制整備を行っていく。また今後は、ヘリポートを活用したDrヘリの積極的な運用（受入・搬送）についても検討を行う予定である。

#### c 地域医療連携

平成16年5月に和歌山県下初の地域医療支援病院に認定される等、地域医療機関との連携にも力を入れている。

大規模災害時に地域の開業医の先生方が当院の医療施設をスムーズに利用していただけるよう、当院の施設・設備になれていただく意味も含め、地域開業医の先生方に当院の日直に参加していただき、地域と連携した救急医療への取り組み、災害医療への備えを行っている。

#### d 政策医療

厚生労働省所管の独立行政法人である労働者健康安全機構の運営する労災病院グループの一員として、国の推進する政策医療にも積極的に関与しており、平成15年5月には働く女性の増加と健康問題に的確に対応するため「女性専用外来」開設している。また、治療・就労両立支援モデル事業の実施施設としての活動も行っている。

- ・平成15年度～ 「女性専用外来」開設
- ・平成26年度～ 治療・就労両立支援モデル事業「糖尿病分野」の協力施設
- ・平成27年度～ 治療・就労両立支援モデル事業「がん分野」の協力施設
- ・平成29年度～ 厚生労働省労災疾病臨床研究事業  
「医療機関における両立支援の取り組みに関する研究」開始
- ・平成30年度～ 常設の両立支援相談窓口を開設予定

### ④ 当院の課題

#### ○ 人材確保

現時点においては、和歌山県立医科大学との良好な関係の下、医師の確保は安定的に実施できている。また、看護師についても常に一定の応募があり安定的に確保でき、特に問題はない。

今後は、長期的視点から若手医師・研修医・医学生等にとって更に魅力的な病院となることを目指し、指導層を担う優秀な医師の更なる確保に務めていく必要がある。

#### ○ 安定的な経営基盤の確立

新病院移転後10年が経過し、施設設備の不具合、修理が増加してきていることや、高額医療機器の更新等が控えていること、また、病院運営に係る固定費が増大している中、収入の確保を確実にし、安定的な経営基盤の確立が必須である。



○ 効率的な病床の運用

90%近い病床稼働率を維持している中で、病床に余裕がないために救急依頼を受けることができないケースや、入院患者数をセーブせざるを得ない状況が発生している。

地域連携の強化のため、平均在院日数の適正化を通じて効率的な病床運用の強化を図る必要がある。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

和歌山市河北・河西地区唯一の公的医療機関として、当院の特徴として前述した以下の各役割、機能について更に充実を図っていく。

- ・ 災害医療
- ・ 救急医療
- ・ 地域医療連携
- ・ 政策医療

② 今後持つべき病床機能

現在の病床機能の維持に努めるとともに、地域で求められる医療に対応すべく、将来的には救急機能の更なる強化を目的としたHCU病床機能（高度急性期病床）の整備についての検討を行っていく必要がある。

③ その他見直すべき点

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成29年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	4	→	4
急性期	299		299
回復期			
慢性期			
(合計)	303		303

(注) HCU病床整備についての検討の結果如何及び、病床機能報告における他院との高度急性期病床報告基準の統一により、急性期病床の一部を高度急性期病床に転換することもありうる。

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度			<div>集中的な検討を促進 2年間程度で</div> <div>第7期 介護保険 事業計画</div> <div>第7次医療計画</div> <div>第8期 介護保険 事業計画</div>
2018年度			
2019～2020 年度			
2021～2023 年度			



## ② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設		→	
廃止		→	
変更・統合		→	

## ③ その他の数値目標について

### 医療提供に関する項目

	平成27年度	平成28年度	数値目標
病床稼働率	87.6%	87.5%	現状維持もしくは微増
手術室内手術件数	4,414件	4,246件	現状維持もしくは増加
紹介率	61.0%	63.6%	現状維持もしくは増加
逆紹介率	91.2%	97.7%	現状維持

### 経営に関する項目\*

	平成27年度	平成28年度	数値目標
人件費率	52.5%	55.0%	現状維持もしくは可能な限り抑制
医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合（※）	0.4%	0.4%	現状維持もしくは微増
材料費率	26.9%	29.0%	現状維持もしくは可能な限り抑制

※人材育成にかかる費用

= 謝金の一部（講師謝礼等）＋研修旅費＋研究費＋図書費＋雑費の一部＋消耗器材費の一部

\* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【4. その他】  
(自由記載)